

令和 6 年度（令和 5 年度対象）

生駒市教育委員会活動点検評価報告書

令和 6 年 8 月

生駒市教育委員会

生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の 状況に関する点検・評価について

生駒市教育委員会では、市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱である「生駒市教育大綱」で示された基本方針に基づく具体的な事業を掲げた教育大綱アクションプランを毎年度策定しています。教育大綱アクションプランは、社会情勢の変化や点検・評価の結果を踏まえ、毎年度見直しを行うこととなっています。

第2次生駒市教育大綱の最終年度となる令和5年度も、教育大綱アクションプランを基に、大綱の基本理念である「『遊ぼう』『学ぼう』『生きよう』みんなでいこまを楽しもう」の実現に向けて、各施策及び事業に取り組んでまいりました。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5月から5類感染症となったことから、活動における様々な制限や制約がなくなり、「コロナ前」のように活動を行えるようになりました。一方で、コロナ禍が社会に及ぼした影響は大きく、多くの面で新たなスタートを切った1年となりました。

このような中、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づく、生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について、アクションプランに掲げられた施策及び事業を中心に、令和5年度の実績の点検・評価を行いましたので、同法第26条の規定により報告します。

令和6年8月26日

生駒市教育委員会

教育長 原 井 葉 子

目 次

令和6年度（令和5年度対象）活動点検評価報告書の作成にあたって	1
1 報告書の位置付け	1
2 国等の動向	1
3 点検評価の概要	2
4 生駒市教育委員会活動点検評価委員の意見	6
教育委員会の活動状況	7
教育大綱に基づく施策・事業	11
基本方針1 子育てを楽しめる地域づくり	11
1 保護者支援の場・コミュニティづくり	11
2 「遊び」を「学び」につなぐ就学前教育の充実	16
基本方針2 21世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり	20
1 「地域に開かれ、地域とともにある学校づくり」の推進	20
2 ICT機器を活用した新たな学びの創出と時代に応じた環境整備	24
3 多様性を認める柔軟性とやさしい心の育成	28
4 主体的に学び、挑戦を続けるたくましい心身の育成	32
5 「楽しい授業づくり」のための教職員の育成と環境整備	36
基本方針3 すべてのライフステージで、楽しみながら学び、地域とつながる機会づくり	40
1 すべての人が楽しく、安心して成長し、活躍できる機会の創出	40
2 人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた図書館づくり	46
3 歴史・伝統文化・芸術を通じた、より豊かなまちの実現	50
4 「健康」「生きがい」「仲間」「まち」をつくるスポーツの発展	55
点検及び評価に関する意見	61

令和6年度（令和5年度対象）活動点検評価報告書の作成にあたって

1 報告書の位置付け

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「法」という。）第26条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表するものです。

2 国等の動向

国では、改正法が平成27年4月に施行され、教育委員会制度が大きく変わりました。

また、学習指導要領が平成28年度末に改訂され、幼稚園は平成30年度、小学校は令和2年度、中学校は令和3年度から新たな学習指導要領に基づく教育課程や指導が実施され、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための取組や、小学校高学年での「外国語科」の導入など、教育を取り巻く環境が大きく変わりました。

あわせて、令和2年度には新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、GIGAスクール構想が前倒しされ、情報端末が児童生徒1人に1台配備されました。また、中央教育審議会では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を柱とした「令和の日本型学校教育」の実現がまとめられています。

生駒市では、平成28年6月に「生駒市教育大綱」を策定し、基本理念である「『遊ぼう』『学ぼう』『生きよう』みんなでいこまを楽しもう」の実現に向けた具体的な取組を「アクションプラン」として掲げ、毎年度PDCAサイクルに基づく効果的な進行管理を行うことにより、より実効的な施策・事業を推進しています。

なお、本大綱は推進期間が4年間とされていたことから、社会情勢の変化やアクションプランにおける実績や成果等を踏まえて、令和2年6月に第2次生駒市教育大綱を策定し、具体的な取組を進めています。また、第2次生駒市教育大綱も策定から4年を経過することから、第2次生駒市教育大綱に基づく施策及び事業の点検・評価は今回で最後になります。

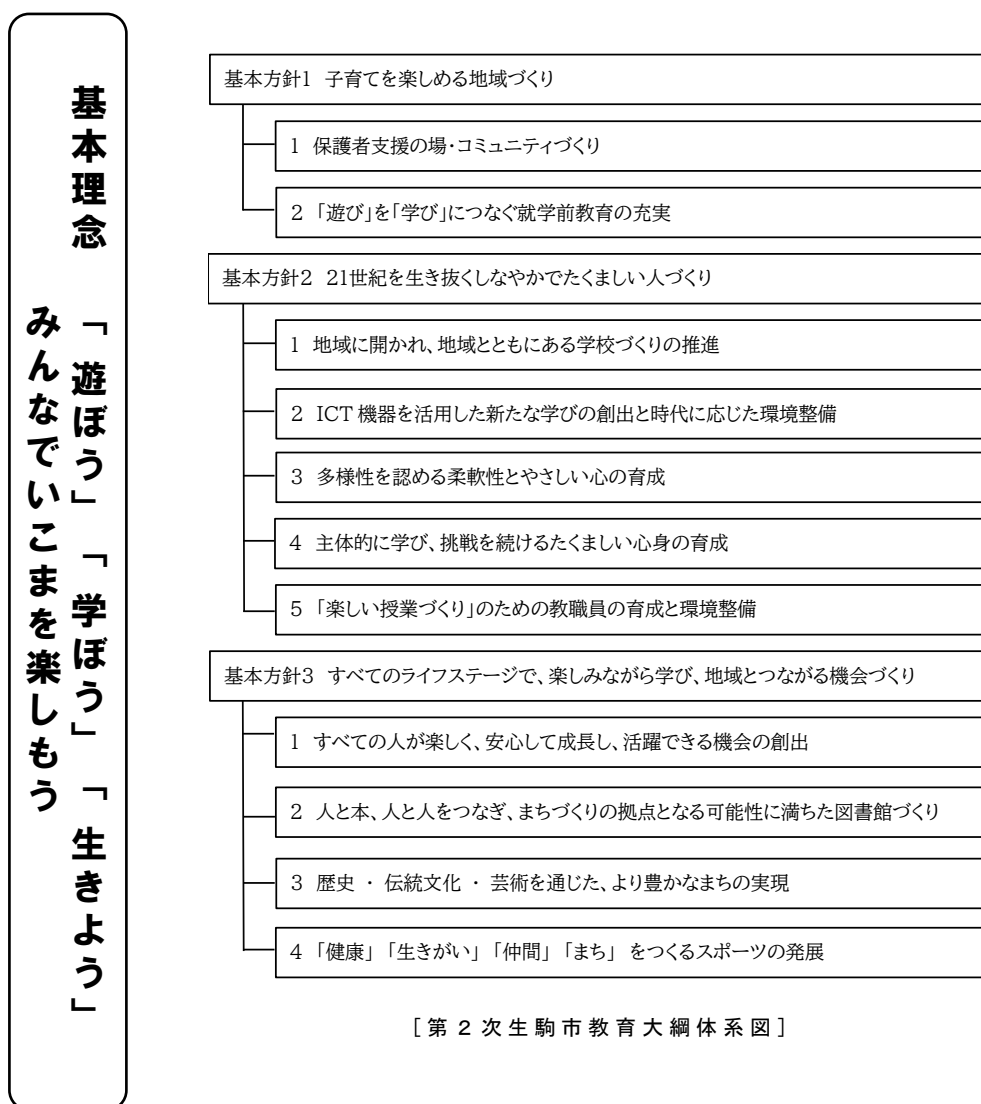
3 点検評価の概要

(1) 点検評価の対象

令和5年度は、教育委員会が行っている活動を大きく下記の2つに分類しそれらを構成する各施策・事業について、点検評価を行います。

①教育委員会の活動状況

②第2次生駒市教育大綱に基づく施策・事業



(2) 点検評価の方法

各事業の取組の実績を踏まえ、達成状況を4段階の評価基準をもって評価します。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した。
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない。
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない。

評価にあたっては、アクションプラン掲載事業については目標に対する達成度を評価するとともに、取組内容や当該事業等の実施によってどのような効果が得られたのかを明確にして評価を行います。

未達成の事業や取組が十分でない事業がある場合は、その要因と理由を明確にし、次年度以降の活動や事業等の実施に活かします。

(3) 評価の総括

教育委員会の活動状況

事業数7 S:0 A:7 B:0 C:0

事業・取組名称	評価
教育委員会会議の開催	A
学校訪問、各施設視察、研究発表会・学校行事の参観	A
その他市教育委員会主催事業等への参加	A
教育委員としての資質・能力の向上	A
各種教育機関との連携	A
総合教育会議の開催（会議は市長が主催）	A
教育大綱アクションプランの策定	A

教育大綱に基づく施策・事業

総事業数90 S:5 A:81 B:3 C:1

基本方針1 子育てを楽しめる地域づくり

事業数16 S:0 A:15 B:1 C:0

事業・取組名称	評価
子ども家庭総合支援拠点の充実	A
第3期生駒市子ども・子育て支援事業計画策定事業	A
地域で支え合う子育ての推進	A
男性の育児を促す取組の推進	A
待機児童解消に向けた取組の推進	B
地域子育て支援拠点事業	A
学童保育の充実	A
家庭・学校・地域が連携した家庭教育の支援	A
幼児期の教育と小学校教育の育ちをつなぐ保幼小接続事業	A
幼稚園コミュニティ・スクール	A
保護者・地域と連携した特色ある幼稚園運営の取組	A
公立幼稚園のあり方に関する検討事業	A
市立幼稚園における預かり保育の実施	A
生駒幼稚園こども園移行事業	A
特別支援教育の充実	A
幼稚園・保育所教員研修の実施	A

基本方針2 21世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり

事業数40 S:4 A:35 B:1 C:0

事業・取組名称	評価
コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の推進	A
放課後子ども教室の運営	A
いこま教育フォーラムの実施	S
積極的な情報公開と学校評価の実施	A
学校創造推進事業	A
安全教育の推進	A
スクールボランティアプログラム・学びのサポーター派遣事業	A
ICTを活用した教育の推進	A
ICT活用教育リーダー育成研修の実施	A
Google認定教育者資格取得支援事業	S
プログラミング教育の推進	A

ICT 活用教育支援事業	A
小・中学校のあり方検討事業	A
小中学校施設の計画的な大規模改修事業	A
生駒南小学校・中学校老朽化対策事業	B
学校給食センター整備事業	A
自殺対策推進事業	A
I C T機器を安全に活用するための情報モラル教育の推進	A
いじめ防止等の施策推進	A
特別支援教育の充実	A
不登校支援推進(のびのびほっとルーム、いきいきほっとルーム、oVice)の運営	A
自校式通級指導教室推進事業	A
スクールカウンセラー配置の拡充	A
スクールソーシャルワーカー配置の拡充	A
特別支援教育支援員の配置	A
教育相談の実施	A
ことばの教室・通級指導教室エルの運営	A
読書活動・学校図書館の充実	A
生駒こどもチャレンジ補助事業	A
社会に開かれた学校教育推進事業	A
部活動支援事業	A
チャレンジ!やさしくたくましいこまっ子キャンプ	A
小学校1年生30人程度学級の実施	A
伝え合う力育成事業	A
奈良先端科学技術大学院大学と連携した授業の実施	A
教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラムの推進	A
グローバル時代に対応した外国語教育の推進	A
問題発見能力や他者と協働するコミュニケーション能力の育成	A
市内教員(ミドルリーダー)向け先進校視察支援事業	S
講師不足対策	S

基本方針3 すべてのライフステージで、楽しみながら学び、地域とつながる機会づくり

事業数 34 S:1 A:31 B:1 C:1

事業・取組名称	評価
幅広い世代への学ぶ機会の提供と地域の人材活用	A
困難を抱える子ども・若者に対する支援の充実	A
学びと活躍推進事業	S
多様性を認め合う場の提供	C

高齢者の学びへの意欲向上と、学びを「行動」につなげる仕組みづくり	A
家庭・学校・地域が連携した家庭教育の支援	A
新たな地域クラブ活動推進事業	A
生涯学習施設整備事業	A
体育施設整備事業	A
生涯学習施設の設備の充実	A
生涯学習施設の管理運営	A
子ども読書活動の充実	A
「人を通して人を知る」「本を通して人を知る」をキャッチフレーズとするビブリオバトル全国大会の開催	A
市民との連携や「協創」のもと、まちづくりの拠点となる図書館づくり	A
図書館読書バリアフリー事業	A
図書館本館リニューアル事業	A
図書館の運営と充実	A
子ども読書活動の充実	A
読書活動ボランティアの育成と協働による事業推進	A
『生駒市史』編さん事業	A
市史編さん収集資料活用事業「いこま歴史アーカイブ」	A
歴史・伝統文化の学びの場の提供と情報発信	A
市民との「協創」による「音楽のまち生駒」の発信	A
生駒ふるさとミュージアム管理運営	A
文化芸術事業	A
文化財保護と歴史文化の普及	A
第２期スポーツ推進計画策定事業	A
総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	A
みんなのスポーツ推進事業	A
トップアスリート連携事業	B
子ども体力向上事業の実施	A
スポーツ、レクリエーション活動	A
社会体育施設の管理運営	A
スポーツ推進審議会の開催、スポーツ推進委員の運営	A

4 生駒市教育委員会活動点検評価委員の意見

点検及び評価にあたっては、法第２６条第２項の規定により、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、生駒市教育委員会活動点検評価委員２名を委嘱し、教育委員会による自己評価に対し、同委員から意見が提出されています。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

教育委員会の活動状況

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
教育委員会 会議の開催	定例会及び臨時会を開催し、議案及び報告案件を審議する。 教育委員会が所管する予算、規則の制定改廃、人事案件等について議決、承認を行う。	【会議開催回数】 定例会：12回 臨時会：3回 【審議件数】 議案：28件 報告案件：19件	A 直接会議の場合に参加ができない場合でもオンラインを活用することにより会議に参加できる環境が整えられていることで、委員が直接議論を行う機会を創出でき、規則の制定改廃や学校での事案等の各案件について、十分な審議の上、遅滞なく議決、承認を行った。
学校訪問、 各施設視察、研究発表会・学校行事の参観	定期学校訪問を実施。 30校園を対象に訪問し、授業の参観及び学校運営全般にわたる視察を行った。	市内30校園で学校訪問を実施し、学校経営、教育課程の運用、学習指導など学校教育全般にわたり、学校の実態に即して指導助言するとともに、各学校が主体的に、より充実した教育活動や特色ある学校経営が推進できるよう支援した。 また、授業の在り方を見直し、授業改善を進めるように助言した。	A コロナ禍を経て新たに動き出した学校の取組について視察を行った。オンライン授業の実施や1人1台端末を活用した授業など新たな学び方についての現状を確認することができた。学習指導要領に沿った授業改善を推進するように助言した。
その他市教育委員会主催事業等への参加	成人式、市民体育大会及び市民体育祭、生駒市人権教育推進協議会総会及び研究大会等へ参加する。	開催された教育委員会主催事業に参加した。 (二十歳のつどい、市民体育大会、生駒市人権教育推進協議会総会及び研究大会)	A 市教育委員会等が主催する行事に参加し、市教育行政について理解を深めることができた。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
教育委員としての資質・能力の向上	全国及び県で開催される研修会等へ参加し、教育委員としての資質・能力の向上を図る。	市町村教育委員会研究協議会、近畿市町村教育委員会研修大会、奈良県市町村教育委員会連合会研修大会に参加。	A 対面のほか、オンラインで開催された研修会にも積極的に参加することで、教育委員各個人において研鑽を積み、能力向上につながった。また、国の動向や県内外の市町村教育委員会の現状や課題を知ることができたのは、教育委員の資質向上に有効であった。
各種教育機関との連携	教育委員会が設置する附属機関や教育関係機関・団体等の活用・連携により、多種多様な教育課題に的確に対応する。	附属機関の活用や教育関係団体との連携を図った。 (社会教育委員、スポーツ推進審議会、子ども・子育て会議、市史編さん委員会)	A 例年同様、多種多様な教育課題に附属機関の活用などの的確な対応を行うとともに、教育関係機関との積極的な連携に努めることができた。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
総合教育会議の開催（会議は市長が主催）	ICT 教育や小中一貫教育をはじめとする教育環境の充実について、市長と協議を行う。	総合教育会議を5回開催し、「第3次生駒市教育大綱の策定について」、「壱分幼稚園の認定こども園整備に関する基本計画策定について」、「生駒南小学校・生駒南中学校整備事業基本構想について」を協議した。	第3次生駒市教育大綱の策定に向けて、令和5年度は5回にわたって協議を行い、教育大綱の内容について深い議論を行うことができた。壱分幼稚園の認定こども園整備に関する基本計画では、民営化された場合のメリットやデメリットを協議し、基本計画案の改善を図った。また、生駒南小学校・生駒南中学校整備事業基本構想については、地域での意見を盛り込んだ基本構想案を協議し、新しい学校整備に向けてどのような学校を作っていくかの認識を共有できた。 A
教育大綱アクションプランの策定	大綱の基本理念及び基本方針を実現するため、具体的な施策・事業を掲げたアクションプランを策定し、PDCA サイクルに基づく実効性のある取組を推進する。	令和2年6月に策定された第2次生駒市教育大綱に基づき、令和5年度アクションプランを策定した。	生駒市教育大綱に基づくアクションプランを策定し、PDCA サイクルに基づく施策・事業の推進を行うことができ、事業の重点化、実効性担保などを図る一助となっている。 A

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

- ・第2次生駒市教育大綱に基づく、新たな事業や施策を展開していくとともに事業等の検証を常に行い、次年度以降の取組に活かしていく。
- ・令和6年度に第3次教育大綱が策定されることを踏まえ、総合教育会議での市長との協議を進めながら、新たな教育大綱の下で教育委員会として市の教育のさらなる発展に向けた事業を推進していく。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

教育大綱に基づく施策・事業

基本方針１ 子育てを楽しめる地域づくり

１ 保護者支援の場・コミュニティづくり

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和５年度の取組/設定目標	
子ども家庭 総合支援拠 点の充実	子育て家庭と妊産婦 等を支援するため、 関係機関と連携し支 援することにより、虐 待の未然防止・早期 発見に努める。	・拠点の相談体制の 充実 ・生駒市要保護児童 対策地域協議会の 運営（個別ケース検 討会議：３９８回/実 務者会議：２４回/代 表者会議：１回）	A 拠点担当者に必要な 研修を受講させ、 知識・対応力の向 上により、相談体制 を充実させた。 また、虐待ケースに 対応する際、その 家庭に関係する機 関で集まって情報 共有し、その家庭 の状況に沿った支 援計画を立て、そ れぞれの機関が役 割分担をして必要 な支援を家庭に入 れていくことで、子 育て家庭と妊産婦 等への支援を行っ た。
第３期生駒 市子ども・子 育て支援事 業計画策定 事業	現行の第２期生駒市 子ども・子育て支援 事業計画が令和６年 度に最終年度を迎え るため、令和７年度 から１１年度を計画 期間とする第３期生 駒市子ども・子育て 支援事業計画を策定 する。	・第３期子ども・子 育て支援事業計画の 策定にあたり、量の 見込みの根拠として ニーズ調査を実施 する。	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
地域で支え 合う子育て の推進	ファミリー・サポート 事業の周知を図り、 子育てを地域で支え あうためのコミュニ ティを構築する。 子育てシェアを広げ るための地域交流 会の開催、及び地 元ママサポーター や会員による子育 てシェアの拡大を サポートする。	・ファミリー・サポ ート会員：725人 援助会員：185人 両方会員：41人 合計：951人 活動件数 2,398件	A 【ファミリー・サ ポート】 11月1日からセ ンター内での短時 間預かり事業が はじまったこと により、依頼会 員援助会員とも に会員数が大き く増加した。 【子育てシェア】 毎月オンライン での説明会を開 催し、事業の周 知をはかったこ とにより、登録 者数を増やし、 シェアコンサル ジュ7人を維持 した。
		・子育てシェア シェアコンサル ジュ(ママサポ ーター)：7人 登録者数：373人 ・ファミリー・サ ポート事業の周 知 ・子育てシェア の交流会の開 催、及び事業 周知のサポート	
男性の育 児を促す 取組の推 進	父親が育児を 自らのことと 捉えられるよ う、父親の子 育てを後押し する事業を実 施する。	【開催回数】 ・パパセミナー 2期各4回 計8回 参加組数：15組 (対象：第1子 と父母) ・夫婦で聞く 前向き子育て セミナー 1回 参加組数：7組	A 【パパセミナー】 2期開催した。 講座修了後の アンケートで は父親がこども と関わる時間 が増えたなど の声が聞かれた。 【夫婦で聞く 前向き子育て セミナー】 紹介されたこ どもとの関わり 方について、 実践してみよ うと思うなど の前向きな感 想がみられた。
		・パパセミナー /3期 ・夫婦で聞く 前向き子育て セミナー/1回	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
待機児童解消に向けた 取組の推進	令和6年度までの待 機児童解消に向け、 小規模保育所又は認 可保育所等(分園)の 新設、保育人材確 保、保育コンシェル ジュ相談事業を実施す る。	・小規模保育所及び 保育所等の分園公 募：1者の応募があ ったが、事業者選定 には至らず。 ・「資格をいかそう！ 相談会」参加者：延 べ31人 ・保育コンシェルジュ 相談件数：362件 ・短時間勤務保育士 に対する処遇改善 補助実施。保育士サ ポート手当新設 /令和6年4月1日 入所の待機児童数1 6人	B ・小規模保育所及 び保育所等の分 園の誘致につい て、応募事業者 から卒園後の3 歳児を受け入れ る連携施設確保 の提案がなかつ たことから、事 業者選定に至ら なかった。 ・出生数は減少傾 向にあるものの 全国的な保育士 不足、保育ニー ズの高まりや生 駒駅及び東生駒 駅周辺の受け皿 の不足等によ り、待機児童が 発生している。 保育コンシェル ジュの出前相談 回数を増やす 等、保護者に寄 り添う支援を充 実させたこと が、交通至便な 保育所等への希 望者の偏重に伴 う利用定員と の間の乖離(ミ スマッチ)の解 消や保護者の安 心に繋がってい る。
		・小規模保育所の公 募等、地域型保育 事業の推進 ・保育士確保事業の 実施 ・保育士確保事業と して、短時間勤務 保育士を対象とし た処遇改善補助金 を創設するととも に、新規に雇用し た常勤保育士、保 育教諭には1年経 過ごとに、手当を 支給する。(3年間) /待機児童数：5人 ※R2.10～保育所等 利用の実質待機児 童数のカウント方 法見直し ▶新カウント方式 6園以上を希望し て入所が決まらな かった児童数 ▶旧カウント方式 2園以上を希望し て入所が決まらな かった児童数	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
地域子育て 支援拠点事業	乳幼児及びその保護者の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う。	利用人数：33,833人 年間を通して、市内10か所で事業実施/利用人数：48,081人	A 感染拡大防止に努めながら、年間を通して開所した。こどもの発達や生活リズムのことなど様々な子育て相談が寄せられ、拠点において、利用者に寄り添った対応に努めた。
学童保育の 充実	増加する学童保育需要に対応するため、生駒市学童保育運営協議会が運営する学童保育所の環境整備、指導員確保などによる体制づくりに取組むとともに、新たなニーズに応えるため、民間事業者による学童保育事業を促進する。	学童児童増加に伴う分散保育を目的として、生駒小学校で教室を借用し、保育備品の充実を図った。 ・運営協議会に対する支援 ・民間事業者に対する支援 ・民間学童保育所数：7か所	A ・教室を借用し、使用することにより、一人当たりの基準面積を確保している。 ・運営協議会及び民間学童保育所に対し、助成金を交付した。
家庭・学校・ 地域が連携した家庭教育の支援	子育ての不安解消や地域でのつながりづくりなどを目的に、地域で子育て支援等に関わる市民との協働により立ち上げた生駒市家庭教育支援チーム「たけのこ」を中心に、学校園などとの連携のもと親子や保護者を対象とした交流事業や家庭教育に関する情報発信などに取り組む。	・地域での交流イベントの開催 開催回数：2回 参加者数：計45人 ・「たけのこ通信」の発行 2回 ・チームメンバーの研修の実施 1回 ・家庭教育支援チーム「たけのこ」による取組の実施 ・取組の情報発信 ・チームメンバーの研修 ・学校園への訪問 ・個別相談の試行	A 交流イベントの参加人数は少なかったが、そのぶん参加した保護者との対話を充実させ、保護者にとっても家庭教育に関する学びが深まり他の保護者となつながら機会となり満足度も高いものとなった。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

- ・小規模保育所等の卒園後の3歳児を受け入れる連携施設の確保や各園が定員まで児童を受け入れる保育人材の確保が難しい状況が続いている。
- ・学童児の増加に対応する学童保育指導員確保が難しい状況である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

- ・令和6年度も小規模保育所等の公募を行うとともに、引き続き、保育人材の確保に努める。また、令和9年4月の開園に向けた壱分幼稚園の認定こども園整備等を進め、待機児童の解消に向けた取組を推進する。
- ・多様化する学童保育のニーズに対応するため、保育環境の整備や指導員の確保などによる体制づくりに取り組むとともに、民間事業者による学童保育事業を促進する。

< 参考データ >

生駒市学童保育運営協議会が運営する学童施設の在籍児童数

(令和5.10.1時点) (単位:人)

小学校名	学童名	児童数	小学校名	学童名	児童数
生駒北小	生駒北学童	20	桜ヶ丘小	桜ヶ丘1学童	60
鹿ノ台小	鹿ノ台1学童	76	桜ヶ丘小	桜ヶ丘2学童	53
	鹿ノ台2学童	76		桜ヶ丘3学童	58
真弓小	真弓1学童	65	生駒小	生駒1学童	77
	真弓2学童	69		生駒2学童	87
あすか野小	あすか野1学童	67		生駒3学童	80
	あすか野2学童	70	生駒東小	生駒東1学童	61
	あすか野3学童	69		生駒東2学童	58
	あすか野4学童	50	壱分小	壱分1学童	64
生駒台小	生駒台1学童	110		壱分2学童	46
	生駒台2学童	74		壱分3学童	64
俵口小	俵口1学童	49	生駒南小	生駒南A学童	47
	俵口2学童	50		生駒南B学童	50
			生駒南第二小	生駒南第二学童	41
計					1,691

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 「遊び」を「学び」につなぐ就学前教育の充実

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
幼児期の教育と小学校教育の育ちをつなぐ保幼小接続事業	保育所と幼稚園の学びを連続性・一貫性のある教育として小学校へつなぐ。	生駒市保幼小接続推進会議を3回開催し、年度末に1年間の取組を報告書にまとめ各校園に配布	A 目標どおり生駒市保幼小接続推進会議を開催し、2回目には外部講師を招き、「互いの教育を理解し、見通しを持った接続期教育の充実の実現に向けて」をテーマに研修会を開催して保幼小接続についての学びを深めた。
		・推進会議実施 ・園児及び職員間交流の計画と実施 /保幼小推進接続会議の開催回数：3回	
幼稚園コミュニティ・スクール	「生駒市立幼稚園の再編にかかる方向性について」(令和3年11月)に基づき、園と保護者、地域コミュニティが連携し、子どものために取り組んでいる地域園協働本部「えん・くろす」をコミュニティ・スクールとして組織化し、継続的に取組を進める。	・なばた幼稚園、俵口幼稚園で学校運営協議会を設置 ・地域園協働本部「えん・くろす」会議開催回数：6回	A 新たに設置した学校運営協議会との一体的な推進により、「えん・くろす」の取組が、一層地域や保護者の主体的な活動によって実施され、園が地域活性化の役割も担っている。 コミュニティ・スクール連絡協議会で2年間の取組を発表し、他校園と情報共有した。
		・なばた幼稚園、俵口幼稚園で実施 /地域園協働本部「えん・くろす」会議の開催回数：12回	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
保護者・地域 と連携した特 色ある幼稚 園運営の取 組	「遊び」を「学び」へつ なぐ幼児教育を可視 化し、保護者・地域の 市民力を保育に取り 入れ、特色ある幼稚 園運営を行う。	・写真、動画、リーフ レットを活用し「遊 び」を「学び」への視 点で幼児教育にお ける保育活動を分 析する研修を実施 し、さらに認識を深 めた。 ・保護者ボランティ ア、地域の方と活動 を実施した。 /保護者・地域との 協働回数：8回 ・アフターコロナにお ける保護者、地域と の協働にかかる取 組の実施 ・園から保護者、地域 への教育活動の発 信を工夫する。 /保護者・地域との 協働回数：8回	A ・遊びの中の学び や幼児期の終わ りまでに育っ てほしい姿につ いて共有し、保 育活動の分析を 行うことができた。 ・機会を捉えて写 真や動画、資料 を使用し可視化 して、保護者に わかりやすく示 すことができた。
公立幼稚園 のあり方に関 する検討事 業	令和2年2月に答申 を受けた「今後の生 駒市立幼稚園のあり 方について」を踏ま え、幼稚園のこども 園化の実現性や園規 模の適正化に向けた 検討を進めていく。	・令和5年12月25日 「壱分幼稚園の認定 こども園整備に関す る基本計画」策定 ・壱分幼稚園 こども 園化への検討 ・その他、方向性に基 づく各種取組の検 討、実施	A ・壱分幼稚園関係 者への説明・意 見聴取を行い、 教育委員会で5 回、総合教育会 議で2回審議さ れ、策定に至っ た。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
市立幼稚園 における預 かり保育の 実施	子育て支援の一環として、預かり保育・長時間預かり保育を実施する。	預かり保育利用者数 〔市立6幼稚園〕 のべ14,911人 〔認定こども園生駒幼稚園、南こども園1号認定児〕 早朝・延長預かり保育 のべ4,429人 通常預かり保育 のべ6,596人	A 令和5年9月から預かり保育時間を17時まで延長した結果、全体的に利用人数が大幅に増加した。
生駒幼稚園 こども園移行 事業	子育て環境の充実を図るため、生駒幼稚園を幼稚園型認定こども園に移行する。	預かり保育利用者数 (1号認定児) のべ9,091人	A 保護者の就労により、前年度に比べ、利用者が増えた。
特別支援教育 の充実	4、5歳児クラスに特別支援介助講師を配置する。	加配申請児 73名	A 特別支援加配を必要とする園児3人に1人の加配教諭を配置し、一人ひとりの特性に応じてきめ細かい支援を行うことができた。
幼稚園・保育 所教員研修 の実施	更なる就学前教育環境の充実を図るため、職員の資質向上につながる研修を実施する。	新規採用職員研修、 中堅教員研修、常勤 講師・保育士合同研 修 幼稚園・保育園交流 学習会 年間計11回	A 幼稚園保育園こども園の保育の公開を通して、乳幼児理解を深め、保育技術の向上に繋げることができた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

- ・「今後の生駒市立幼稚園のあり方について」の見込み以上に幼稚園の園児数が著しく減少している。
- ・幼稚園の三期休業中の預かり保育や、預かり保育時間延長を継続できる人員確保が必要である。
- ・職員の資質向上のための研修機会の確保と経験年数に応じた研修内容を今後も検討していく必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

- ・園児数の減少が著しい幼稚園において、集団性・協同性の育ち等のために、子どもの成長を最優先に考え、再編に向けた対応を進めて行く。

< 参考データ >

市立幼稚園園児数（令和５．５．１時点）（単位：人）

3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
169	240	208	617

市立保育所園児数（令和５．５．１時点）（単位：人）

0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
27	70	106	148	149	143	643

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

基本方針 2 21 世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり

1 「地域に開かれ、地域とともにある学校づくり」の推進

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和 5 年度の取組/設定目標	
コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度)の 推進	学校と地域住民等が力を合わせて子どもたちの成長を育むため、地域住民等が学校運営に取り組むことが可能となる学校運営協議会を各小・中学校に設置し、地域とともにある、地域に開かれた学校を推進する。地域の現実に即した当事者能力を子どもたちに育むため、学校運営協議会によるカリキュラムの提案も歓迎する。	学校運営協議会を市内全小中学校に設置し、カリキュラムの提案も歓迎するという方針で協議を行った。 / 学校運営協議会設置校数: 19 校、学校運営協議会の開催回数: 54 回	A ・市内全小中学校で学校運営協議会を設置し、本格的に地域学校協働活動が行われている。 ・コミュニティ・スクール連絡協議会を開催し、3 校と 2 園が 1 年間の取組を発表し交流を行った。
		学校運営協議会の開催 / 学校運営協議会設置校数: 全校 学校運営協議会の開催回数: 57 回	
放課後子ども教室の運営	地域学校協働活動として放課後や長期休業中等において、子どもたちが安全・安心に過ごし、多様な体験・活動ができる居場所をつくる。	市内 9 校において放課後の子どもの居場所として 194 回開催。登録人数 420 人。のべ参加人数 5538 人。	A 新たに 2 校で放課後子ども教室が開かれ、子どもが多様な体験・活動の場が広がった。
		放課後子ども教室設置数/ 9 校	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
いこま教育フォーラムの実施	令和4年度に実施した「いこま教育フォーラム」を年2回の継続開催事業とする。開催にあたっては、教育行政課題からテーマを選定しながら教育委員会の方針や活動、学校の様子を伝える機会にするとともに、保護者や市民をはじめとした多くの人の声を吸い上げる場とする。	いこま教育フォーラムを2回実施した。それぞれのテーマは、教育委員会が取り組んでいる事業との関連性も考慮し、「自立して学ぶ力を子どもたちに育むために」と「地域とともにある学校づくりを目指して」とした。 ・いこま教育フォーラムの開催回数/2回	S ・1回目のいこま教育フォーラムでは、教職員に対する大規模アンケートを実施し、教職員のニーズに応じた講演及び分科会内容が、今後求められる授業改善の方向性及び学校現場の課題感と合致していたため、2学期以降の各学校から授業改善へ積極的な取組の報告があり、教職員の更なる資質能力の向上につながっている。 ・2回目のいこま教育フォーラムでは、コミュニティスクール連絡協議会と合わせる形をとり、より参加型・対話型のコンテンツにリニューアルすることができた。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
積極的な情報公開と学校評価の実施	学校評価を実施・公表し、改善点を明確にするなど、更なる学校経営の充実を図るとともに、ホームページでの情報掲載など、積極的な情報公開による開かれた学校づくりを推進する。	・3校で1日学校訪問を実施した。 ・学校評価総括表を活用した学校評価を全校で実施した。	A 学校評価総括表を活用した学校評価を全校で実施し、ホームページやX（旧Twitter）、学校だよりでの情報公開を実施できた。
学校創造推進事業	保護者や地域住民との連携のもとで様々な取組を実施し、信頼され、開かれた学校づくりを進める。	地域の方々との交流の機会や命を守るための教育活動を充実するなど、各校で特色のある教育活動を実施した。 実施回数：1,880回	A 特色のある教育活動を推進することにより、信頼され、開かれた学校づくりを進めることができた。
安全教育の推進	学校安全教育の実施や迅速な不審者情報の提供など安全教育委を推進する。	各校からの不審者情報をもとに、子ども安全メールへの掲載を希望される事象に対して、登録者に対してメールを配信した。年間で27回配信し、情報を周知した。	A 保護者や地域の方に子ども安全メールを活用し、いち早く不審者情報を伝えることで、子どもを見守るための意識の向上や犯罪抑止に努めた。
スクールボランティアプログラム・学びのサポーター派遣事業	地域住民がスクールボランティア、市内の大学生が学びのサポーターとして、学校運営に協力し、学校教育の充実を図る。	スクールボランティアと協力し、学校教育の充実を図った。また、学びのサポーターを年間602日間、小学校中学校に配置した。	A 学びのサポーターを各小中学校へ派遣することにより、学校の取り組みを支援し学校教育の充実を図った。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

- ・主体的・対話的で深い学びを実践していくために、いこま教育フォーラムでは講演会及び研修会を開催した。その中で市民に対してこれからの学校教育の在り方を周知するとともに、先生方に対してワークショップ等、取組の共有を行った。各校で授業改善の取組は広がりつつあるが、まだ全体に広がっているわけではない。従来型の一斉授業だけでなく、対話型をはじめとした様々な授業形態の導入を推進していくことが課題である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

- ・令和6年度は、伴走型支援を行っていくとともに、市内の学校同士や先進校と繋がりながら取組の共有や研修を行い、授業改善を推進していく。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 ICT 機器を活用した新たな学びの創出と時代に応じた環境整備

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
ICT を活用 した教育の 推進	全小中学校に児童生徒1人1台整備された情報端末を生かした学習指導計画を立案し、日常的学習活動に位置づけることで、学習内容理解の充実を図るとともに、ICTを活用した新しい学習形態を実現する。 また、ICTを活用した個別最適な学びを実現させるため、AI学習ドリルの導入を検討する。	児童生徒に1人1台のPC端末を活用した取組や学習を推進した。また、20校から効果的な取組について報告を受け各校に共有した。 ・情報端末を活用した授業の展開 /活用報告事例数：384件	A 児童生徒がPC端末に慣れ、様々なアプリやブラウザツールを活用した協働学習が進んでいる。今後は授業改善を進める中で、必要な時にICTを活用する新しい学習形態の実現を目指す。
ICT 活用教育リーダー育成研修の実施	校務処理や教材開発などに係る高度なICTスキルを身に付けた教員を育成することで、学校におけるICT利用の日常化を図るとともに、指導場面における効果的なICT利用の形態を提案し、実証することのできる教員の育成を図る。	ICT 活用教育リーダー育成研修の実施 /研修の実施回数：6回 リーダー研修後、各校で職員研修の実施 /研修の実施回数：10回	A オンラインでの実施により参加しやすい環境を設定できた。各校の取組を発表する機会を設けたことにより取組内容の市内の学校に共有することができた。研修で行った内容をもとに各校で取組を進めることができ、ICT活用における教員の質を高め、業務などの平準化を図ることができた。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
Google 認定教育者資格取得支援事業	ICT を活用した授業を実践する教員の基礎スキル向上のために、Google 認定教育者資格取得を支援する。客観的評価にもなる公的な資格取得が増えることにより、市内教員の ICT スキルのボトムアップにつなげ、認定教育者グループに参加する教員が増えることにより、授業改善につなげる。	夏期と冬期休暇中に試験対策講座を実施。受講者33人うち29人が合格した。	S
		・夏期休暇中に試験対策講座を実施/試験対策講座参加者数20人	
プログラミング教育の推進	小学校の学習活動の中でプログラミング的思考の育成を各教科等の授業で進めていくため、「プログラミング教育推進計画」を策定し、プログラミング教育を実施する。	各校で作成したプログラミング教育推進計画に従い実施。9校で新規購入したプログラミング教育用ロボット活用した授業を実施。	A
		・授業実施 1～4年：6時間 5・6年：12時間 ・授業実践の交流 /1校当たりの平均授業時間数：48時間	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
ICT 活用教育支援事業	全小中学校に児童生徒1人1台整備したPC端末を、授業等で円滑に活用するため、ICT 支援員を配置する。また、県域ICT 支援センターを活用することで、これまで以上に教育データの利活用を進める。	小中学校19校に1名ずつICT支援員を隔週1回(全日)配置した。県域ICT支援センターの活用(日々の活用、年次更新) ・令和4年度の配置の検証を踏まえたICT支援員の配置 ・県域ICT支援センターの活用 / ICT支援員配置回数:週1回	A 全小中学校にICT支援員を配置し、児童生徒1人1台端末を、授業等で円滑に活用できるよう支援体制を整え、端末操作支援だけでなく、授業支援や各種研修を行うことができた。
小・中学校のあり方検討事業	令和2年2月に答申を受けた「今後の生駒市立小・中学校のあり方について」を踏まえ、学校規模の適正化に向けた検討を進めていく。	生駒市立生駒南小学校・中学校の整備に向けて、「これからの学びを実現する生駒南小・中学校の施設整備を考える会議」を3回開催した。 ・南小中学校建替に係る準備会の開催	A 「これからの学びを実現する生駒南小・中学校の施設整備を考える会議」において地域からの意見を集約し、生駒南小学校・生駒南中学校整備事業基本構想に盛り込んだ。また、「生駒南小学校・生駒南中学校の未来を考える会」を開催し、基本構想や新しい学校についての周知を図った。
小中学校施設の計画的な大規模改修事業	建設から40年程度経過し、老朽化が進んでいること小中学校の大規模改修を順次計画的に実施する。	上中学校の大規模改修に係る耐力度調査及び基本設計を令和5年度から継続。 ・大規模改修に向けた耐力度調査・基本設計(上中)	A 上中学校の長寿命化を図るための大規模改修に必要な耐力度調査及び基本設計に完了した。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
生駒南小学校・中学校老朽化対策事業	老朽化が進んでいる生駒南小学校及び生駒南中学校の全面改築も含めた整備を実施する。	- 境界確定の作業を実施したが、地権者との調整に時間を要したことから令和6年度に繰越した。 - 基本構想の策定を完了することができた。	B 境界確定の作業を実施したが行うために必要となる公図の作成を行い、境界確定業務に必要な筆数の把握を行うことができた。
		境界確定・開発に係る申請・基本構想の策定	
学校給食センター整備事業	中学校給食センターの老朽化に伴う施設の改修と更新を実施する。	床改修工事を施工し、完了することができた。	A 給食の提供を中止することなく、年度当初に予定していた床改修工事を完了することができた。
		- 工事(床等) - 施工管理(床等)	

【評価による課題】

- ・1人1台端末を使用することが日常化してきた中で、より活用を推進するために苦手な教職員のサポートだけでなく、希望者が資格取得し、授業や校務にスキルを活かすことができる仕組みを構築できた。今後は授業改善や学びの在り方を検討する中で端末をどのように活用するかが課題である。
- ・学校施設の多くは老朽化の課題を抱えており、学校運営にも支障が生じかねないことから、計画的な大規模改修を行っていく必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

- ・時代に応じた授業や学びの在り方を検討する中で、学習の基盤となる情報活用能力は不可欠であるため、指導者である教員一人ひとりに寄り添いながら、スキルアップを目的とした研修を今後も実施していく。
- ・施設の老朽化については、財政負担も考慮しつつ、計画的に実施できるよう長期的な視点に立って実施していく。

学校給食の実施状況 (単位：回、円)

	実施回数	給食費(月額)
小学校	185	4,400
中学校	172	4,800

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

3 多様性を認める柔軟性とやさしい心の育成

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
自殺対策推進事業	平成31年3月に策定した「生駒市自殺対策計画」に基づき、「SOS の出し方に関する教育」の研修を実施する。そして児童生徒の心身の状況の把握や児童生徒への相談窓口の周知徹底を行い、スクールカウンセラー等の活用を実施する。	・初任者研修と児童生徒対象にSOSの出し方授業を開催した。 ・全校(20校)にて授業を開催した。 /回数:21回 ・初任者研修での実施 ・各校にて児童生徒に対して開催 /研修回数:21回	A 児童生徒の自殺の現状や、自殺に至る要因などを学び、児童生徒の自死に対しての学校の危機感を高めることができた。また、教員がカウンセリングマインドを身につけることの重要性や、自傷行為を行う児童生徒に対する対処法などを学び、学校としてできる対応への理解が浸透した。
ICT機器を安全に活用するための情報モラル教育の推進	情報社会における安全やルールを児童生徒が主体的に考え、正しく理解し行動するための情報モラルを育成する。	ICT 支援員や専門家を活用した教員向け、児童生徒向け研修を実施した。 ・児童生徒が主体的に考え、正しく行動するためのルール作りの実施 ・生駒市生徒会交流会を開催し各校の取組の交流	A ICT 支援員や専門家を活用した教員向け、児童生徒向け研修を実施するだけでなく、管理職及びICT活用教育リーダー向けにデジタルシチズンシップ教育について研修を実施し教員の指導力向上を図った。
いじめ防止等の施策推進	平成29年3月に策定した「生駒市いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止、早期発見につながる取組を推進する。	生駒市いじめ問題対策連絡協議会を2回開催した。 ・「生駒市いじめ防止基本方針」の改訂 ・生駒市いじめ問題対策連絡協議会の開催/開催回数:2回	A 令和5年度は、「生駒市いじめ防止基本方針」に基づいた対応の徹底、「生徒指導提要の改定に伴う発達支持的生徒指導の考え方の周知」を主なテーマにして議論を行った。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
特別支援教育の充実	特別支援学級在籍児童生徒の学習支援、機能回復のための環境及び体制の充実を図る。	特別支援教育相談を84件行った。 特別支援教育相談の実施 /特別支援教育相談 日数:33日	A 特別支援学級在籍児童生徒や通常学級に在籍し特別な支援を必要とする児童生徒及びその保護者・教師に対する教育相談を、専門知識を有する者で相談を受ける体制を整えた。
不登校支援推進(のびのびほっとルーム、いきいきほっとルーム、oVice)の運営	学校に登校しにくい児童に対して居場所となる適応指導教室を生駒南第二小学校の校舎の一部に開設した。令和5年度から適応指導教室指導員について、のびのび、いきいきにそれぞれ常勤指導員1名を増員する。	心理的あるいは情緒的な原因などにより登校できない児童生徒に支援を実施。 ・生駒南第二小学校内に、教育相談室、適応指導教室の開設	A 心理的あるいは情緒的な原因などにより登校できない児童生徒の居場所支援ができた。在籍児童生徒数ののびのび52名、いきいき40名。
自校式通級指導教室推進事業	自校式の通級指導をより充実させ、全校で実施するために巡回指導時に各校の特別支援学級担当教員が入り、通級指導教室の児童生徒のケースカンファレンスや具体的な支援方法の教授によるスキルアップを行い、その間、特別支援学級担当教員の補充講師を充てる。	全校にて自校式通級指導教室を準備し、指導を実施。 ・特別支援学級の補充教員1人5校担当×4人=週20校配置	A 自校に通級指導教室を準備したことにより、これまで他校でしか通級指導を受けられなかった児童生徒が自校で受けることができるようになり、必要な児童生徒に必要な支援が届けられるようになった。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
スクールカウンセラー配置の拡充	令和5年度から、中学校で月3.5回を月4回に、小学校で月1.5回を月2回に増やし、相談を希望する保護者の期待に応える。緊急の対応やスクールカウンセラーへのアドバイザー的役割を果たすスーパーバイザー的役割をつくる。	市費スクールカウンセラーの配置時間を大幅に増加し、中学校で週に1回、小学校で月に2回、1回4時間の活用を行った。	A スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールアドバイザーズの活用を通して、学校、児童生徒、教員及び保護者に対する指導・助言・支援を行い、学校のカウンセリング機能や教育相談体制の充実を図ることで適切な対応ができるとともに、より多くの相談への対応が可能となった。
スクールソーシャルワーカー配置の拡充	令和5年度から、小学校に月1回スクールソーシャルワーカーを配置し、スクールソーシャルワーカーの役割について理解を深め、ヤングケアラー等の早期発見と早期対応を行う。	スクールソーシャルワーカーは週に1回教育支援施設に配置し、学校の要請に応じて派遣を行った。指導主事とともに学校を回り、各校の不登校支援の課題の洗い出し及び今後の不登校支援体制に聞き取りを行った。	A スクールソーシャルワーカーは週に1回教育支援施設に配置し、学校の要請に応じて派遣を行った。各校の不登校支援の課題の洗い出し及び今後の不登校支援体制についても助言いただいた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組名称	活動内容	実績・成果	評価
特別支援教育支援員の配置	介助や指導補助、学習補助等を行う特別支援教育支援員を各校に配置する。	特別支援教育支援員を平均で各校週6日分配置することができた。	A 各校に就学指導委員が調査を実施。各校の実情に合わせて支援員を配置し、きめ細やかな教育支援をすることが可能となった。
教育相談の実施	教育相談員やスクールカウンセラーなどの専門家を活用し、教育相談を行える環境を整備する。	5名の相談員とカウンセラーなどで教育相談を実施。相談件数：1,926件	A 不登校に関する相談が1,453件と全体の約75%であり、不登校に悩む児童生徒に対して、学校以外の居場所として、生駒市子どもの居場所・学び支援室を紹介し、入室につなげた。
ことばの教室・通級指導教室エルの運営	読み書きやコミュニケーションなどで困っている幼児や児童を支援するために設置していることばの教室・通級指導教室を運営する。	ことばの教室への通級者数は23人であった。	A 幼児の障がいの重複化や多様化が進む中、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育支援を実施することができた。

【評価による課題】

- ・不登校支援推進において、学校外の居場所・支援体制は整えているところだが、学校内においても居場所・支援体制を整えていく必要がある。
- ・自校式通級指導教推進事業において、通級指導を行える教員の養成は進んでいるが、県の教員配置が充分でない中、対象となる児童生徒が増加している。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

- ・令和6年度は、実証事業として校内サポートルームを2校に設置し、不登校傾向にある生徒の居場所を学校内につくり支援を行っていく。
- ・令和8年度には、県の通級指導教員の配置が10割になる。それに向けて通級指導を行うことができる教員を増やしていく。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

4 主体的に学び、挑戦を続けるたくましい心身の育成

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
読書活動・学校図書館の充実	現在、小中学校すべてに学校司書を配置しており、一定の効果が得られている中、引き続き読書を通じて豊かな人間性を育むため、学校司書を配置することに加え、市内中学生ビブリオバトルを実施する。	・小中学校に週3日学校司書を配置した。 ・ビブリオバトル開催数：1回 ・学校司書を全小中学校に配置 ・ビブリオバトル市内中学生大会の実施/学校司書配置日数：週3日・市内中学生ビブリオバトル開催数：1回	A 学校司書と司書教諭が連携し、図書館の環境整備や図書に関するイベントの開催により、児童生徒の読書意欲を向上することができた。また、中学生対象にビブリオバトルを開催した。
生駒こどもチャレンジ補助事業	学校の各種コンテスト等に挑戦するために必要となる経費等を補助する制度を創設し、児童生徒の創造性を培い、達成感を味わうとともに、自己肯定感を高める。	1校がロボットコンテストに、1校がブラスバンドのコンテストに参加した。 - 生駒こどもチャレンジ補助事業の継続実施/実施学校数：2校	A コンテストに参加し、チームで協力することを通して、達成感を味わうことができた。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
社会に開かれた学校教育推進事業	あこがれいこまびと講演事業、学校教育創造推進事業、キャリア教育プランナーとの連携事業による、地域出身の文化人、スポーツ関係者、事業者等、社会で活躍されている方との講演等を通して、児童生徒が郷土愛を持ち、自分の夢に向かって生き生きと活動し、自己有用感を持って将来社会で活躍できる人材を育成する。また、キャリア教育プランナーを中心とした、協働的な学びをはじめとした生き抜く力を育む取組について、持続可能な仕組みを構築する。キャリア教育、ICT教育、SDGs教育、STEAM教育を効果的に進める教科横断的なカリキュラムの構築を進める。	・あこがれいこまびと講演事業では、4校で5事業を実施。 ・キャリア教育プランナーと連携して授業づくりを行った。 /キャリア教育プランナーとの連携事業実施回数：20回	A ・あこがれいこまびと講演事業では、地域出身の方の講演等を通して児童生徒の郷土愛を育むとともに将来の自分のあり方に関心を持たせることができた。 ・キャリア教育プランナーとの連携事業については、社会に開かれた教育課程を実施すべく、学校からのニーズに応じたハンズオン支援を引き続き行った。
		・あこがれいこまびとと講演事業、学校教育創造推進事業、キャリア教育プランナーとの連携事業の実施 /キャリア教育プランナーとの連携事業実施回数：19回	
部活動支援事業	中学校において、専門的な技術指導力を備えた指導者が不在の部に対し、地域の適切な人材を外部指導者として派遣し、部顧問と協力して指導・助言を行わせることにより、部活動を充実させる。	バレーボール、ソフトボール、陸上、バスケットボール、ハンドボール、柔道、テニス、吹奏楽、茶道など、専門的な技術指導力を備えた外部指導者を8校に派遣。部活動指導員実施時間数：2,784時間	A 専門的な技術指導力を備えた指導者が不在で、学校長が必要と認めた部活動に対して、外部指導者を派遣できた。今後部活動の地域移行が本格化していく中、地域指導員を確保する意味でも、前年度よりも多くの指導員を任用できたことには大きな意味があった。
		中学校に外部指導者を配置 /部活動指導員配置時間数：2,880時間	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
チャレンジ！ やさしくたく ましいいこま っ子キャンプ	既存の自然体験学習 のメニューとして防 災キャンプを加え、児 童の防災意識を高 め、命を守ることの 大切さを再認識し、災 害発生時に自分の命 を守る行動を身につ ける。	11校及びいきほ っとルームで防災プ ログラムを実施。	A 自然と向き合った 防災体験活動を 取り入れること で、自然体験の良 さと自然の怖さを 知識として得るこ とができ、児童生 徒の「生きる力」 を育むことがで きた。
		各小中学校の判断に 基づくいきこまっ子キ ャンプの実施 /実施学校数：12校	

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
小学校1年生 30人程度学 級の実施	本市独自の取組とし て、学校教育の充実 を図るため、小学校1 年30人程度学級を 実施する。	全小学校において 30人程度学級を実 施することで、小学 校1年生に対して、き め細かい指導を行っ た。	A 国の少人数学級 の実現として、段 階的に35人学級 が実施されること となり、2年生 までは、35人学 級になっている が、1年生につい ては、引き続きす べての学校にお いて達成すること ができた。
伝え合う力 育成事業	豊かな人間性を育む ため、読書活動を推 進し、各校に学校司 書を配置する。	全ての小中学校に週 3日、学校司書を配 置した。	A 学校司書と司書 教諭が連携し、図 書館の環境整備 や図書に関するイ ベントの開催によ り、児童生徒の読 書意欲を向上す ることができた。
奈良先端科 学技術大学 院大学と連 携した授業 の実施	中学校を対象に奈良 先端科学技術大学院 大学の講師等を招 き、授業を行うこと で学ぶことの興味・関 心を高める。	光や分子、生物など をテーマにした特別 授業を3校及び出前 授業を5校で実施。 授業を受けた生徒の 9割が授業は興味深 い内容であったと回 答した。	A 理科離れが進む 中、学校では体験 できない最先端 の科学に触れるこ とで、理科学習へ の興味・関心を高 めることができた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

- ・これまで、中学校の部活動の指導を支援するために、部活動支援事業を行ってきたが、令和8年度から休日における教員の指導による学校部活動を廃止する内容の通知が県からあった。学校活動の今後について市として方針を出して進めていく必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

- ・部活動の地域移行において、スポーツ振興課と連携をして、学校部活動の在り方について検討し、子どもたちがやりたいスポーツ環境を整えていく。

<参考データ>

市立小・中学校 児童生徒数（令和5.5.1時点）（単位：クラス、人）

小学校名	クラス数	児童数
生駒	30	713
生駒南	18	375
生駒北	9	147
生駒台	33	729
生駒東	18	457
真弓	24	640
俵口	18	426
鹿ノ台	24	547
桜ヶ丘	27	658
あすか野	35	864
壱分	31	787
生駒南第二	10	183
合 計	277	6,526

中学校名	クラス数	児童数
生駒	20	585
生駒南	8	143
生駒北	6	63
緑ヶ丘	16	457
鹿ノ台	10	262
上	21	666
光明	12	369
大瀬	18	499
合 計	111	3,044

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

5 「楽しい授業づくり」のための教職員の育成と環境整備

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
教職員がい いきと子ど もと向き合う 時間創造プ ログラムの推 進	教職員が健康でいき いきとやりがいをもっ て働ける環境整備を 行い、教職員が授業 や教材研究等に集中 し、ゆとりをもって子 どもたちと向き合う時 間の拡充を図る。学 校の業務改善及び教 師の働き方改革を推 進していくために、そ の担い手の核たる教 頭の業務を再定義 し、組織開発の手法 によって働き方改革 を持続的に推進す る。	市内19校にスクール サポートスタッフを配 置した。 2学期から給食費管 理システムを構築し た。 新たな地域クラブ活 動推進協議会におい て、今後の部活動の 段階的な地域移行に ついて検討を進め た。 ・スクールサポートス タッフの全校配置 ・校務支援システム の運用 ・給食費管理システ ム業務導入 ・教職員の業務改善 についての各種調 査及び整理 ・働き方改革の施策 実施 ・部活動の段階的な 地域移行	スクールサポ ート スタッフを配置す ることで、教職員 の働き方改革に 貢献し、勤務時間 の削減を行うこと ができた。 2学期から給食費 管理システムを導 入しことで、事務 の改善ができた。 部活動の段階的 な地域移行は、関 係者と連携を取り ながら検討を進 めて行く。 A

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
グローバル 時代に対応 した外国語 教育の推進	小学校1年生から英語の楽しさを感じられる取組を行い、小中学校9年間を通した系統的な英語教育カリキュラムを実施する。	小学校3・4年生で35時間外国語活動を行い、5・6年生で70時間外国語（英語）を実施。市では独自に小学校1・2年生に対して教材を作成し、10時間程度外国語活動を実施。 /全国学力調査より「英語の勉強は好きですか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合 小学校6年 66.9 中学校3年 48.1	A
		年間小学校1・2年生で10時間程度、小学校3・4年生で35時間英語活動、小学校5・6年生で70時間英語を実施（ALT、わくわくイングリッシュサポーターを配置） /全国学力調査より「①英語の勉強は好きですか」「②英語の授業で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができましたか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合 小学校6年 ①70.0②70.0 中学校3年 ① 65.0②65.0	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
問題発見能力や他者と協働するコミュニケーション能力の育成	21世紀を生き抜く力として、授業において、日常の疑問を発見する力やコミュニケーション能力の育成を図るとともに、必要となる教職員の能力育成のための研修を強化する。	本市キャリア教育プランナーが「キャリア教育クライマー会議」に参加した教員とともにキャリア教育授業を行った。 /キャリア教育クライマー会議参加者数：25人 教職員のファシリテーション能力の育成のための研修開催 /生駒市教育研修会参加者数：300人	A 令和5年度は大規模な研修ではなく、教員とともに授業を作り上げる取組を行ったことから、目標参加者数は減少したが、ひとり一人の教員と熟議を重ねて授業を作り上げたことで、教員の能力向上に資することができた。
市内教員（ミドルリーダー）向け先進校視察支援事業	ミドルリーダー層以上の教員が自分自身の教育観や授業観のアップデートに充てる時間を確保するために、教育委員会事務局主導で先進校視察を行い、先進的な取組を市内の教育に取り入れるきっかけとする。	先進的な取組を行っている学校等へ計20回の視察を実施し、延べ65人の教員等が参加した。 ・視察実施 /視察参加延べ人数 20人	S ICT端末を有意義に活用した授業や自由進度学習に積極的に取り組んでいる学校等の先進地視察の複数回実施及び複数人参加により、本市の目指すべき教育の方向性についての共通認識を持つことができた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
講師不足対策	定数内講師の不足の解消及び、今後予想される講師不足に関する施策を実施する。潜在的人材、積極的に講師を選択する人材など、多様なニーズに対応できるよう取組を進める。	個別就労相談会を実施し、昨年度に引き続き、常勤講師・非常勤講師・特別支援教育支援員・スクールサポートスタッフ・通級指導補助・司書教諭等、31名の就労に繋げた。	S 年度途中に発生した講師等の欠員を、就労相談会による候補者リスト(前年度の55名に加え48名の登録があり計103名)によって迅速に埋めることができた。また、令和6年2月から開始した「教育・保育資格バンク」ではオンラインツールを導入し新たな登録者を増やした。これにより、令和6年度開始の小学校高学年専科加配において12校全て埋めることができた。また令和6年4月時点における講師の配置において、小学校は全校で不足ゼロ、中学校においては2人欠員ではあるが、同規模の他市町村と比較して相当に少ない状況にできた。
		・講師相談会の実施 ・いこまde先生シェアハウスの準備 / 講師・支援員就労相談会参加者数：50人	

【評価による課題】

- ・多くの教員等に先進的な取組を学んでもらうために視察を行っているが、視察で得た知見を各学校の教育活動に活用し、市内各学校へ広げていく必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

- ・視察に向かう教員等の選定の際には、授業改善に意欲を持つ者を複数人選出し、教員等が所属する学校の垣根を超えたつながりを生み出すことで先進的な取組を行いやすい機運を高めていく。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

基本方針3 すべてのライフステージで、楽しみながら学び、地域とつながる機会づくり

1 すべての人が楽しく、安心して成長し、活躍できる機会の創出

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
幅広い世代への学ぶ機会の提供と地域の人材活用	「IKOMA サマーセミナー」など、様々な特技や専門知識等を持った市民自身が先生となって、市民への学びや体験の場を提供するとともに、市民が活躍する機会とする。また、このような場づくりを市民が主体となって継続的に取り組み、さらに発展していけるよう支援することで、生駒の誇る「市民力」をさらに引き出し、市民の持つスキルやアイデアを活かしたまちづくりにつなげる。	・「IKOMAサマーセミナー2023」 実行委員数：9人 開催日：8月20日（北コミュニティセンターISTAはばたき） 講座数：63講座 延べ受講者数：777人 参加者実人数：約250人 ・市民主体の実行委員会による開催・運営 ・先生募集対象の拡大 /IKOMA サマーセミナー実行委員数：15人	A 引き続き実行委員会が主体となって企画し、講座数も前年度から大幅に拡大して開催できた。先生についても実行委員や庁内各課と連携しながら声掛けを行い、63講座のうち37人が初めて先生を務めるなど、新たな人材の発掘にもつながった。今後も先生や実行委員、スタッフなど様々な形で本事業に携わる人材の拡充を図り、さらなる事業の充実と円滑な実施につなげる。
困難を抱える子ども・若者に対する支援の充実	子ども・若者総合相談窓口「ユースネットいこま」を拠点として、様々な困難を抱える子ども・若者が自立した社会生活を送れるよう、「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」の有効活用及び関係機関との連携のもと必要な支援を行う。	・ユースネットいこまにおける相談支援 /相談人数：81人（うち新規36人） ・進路決定者15人 ・「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」の運営 ・ユースネットいこまにおける相談支援 ・「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」の運営 /ユースネットいこまの相談者数：120人	A 対面やオンライン、メール等で相談に応じ、自立に向けた支援を行った。相談者数は伸び悩んだものの、当事者の思いに寄り添いながら支援を行ったほか、ボランティアやチラシデザイン協力など様々な形で社会参加の機会を創出するなど自立支援に向けた取組を充実させることができた。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
学びと活躍推進事業	主に働き盛り世代の市民対象に、学びを通してより豊かな生き方、暮らし方に向けた気づきやきっかけとなるよう、「ischool」を展開する。 「ischool」では、「ミライの教室」として市民や企業、大学など多様な主体による講座や、学びと交流の社会見学「まちミル」などを実施し、市民がさまざまな気づきを得て新たな行動につながるきっかけとする。	・未来ひろがる学びの場「ischool」 学びと交流の社会見学「まちミル」 開催回数:3回 参加者数:96人 「ミライの教室」 開催回数:22回 参加者数:561人 ・「学びのポータルサイト」の運営 年度中のページビュー数:49,987	S ・「ischool」では子育て世代の関心やニーズに沿った多様な講座を市民と連携して企画実施した。 ・社会見学は庁内各課と連携して企画実施することで、参加した市民に行政の取組や課題を身近に感じてもらうことができた。 ・「学びのポータルサイト」では講座の告知から開催後のレポートまで様々な情報を発信したことで、より多くの市民の関心を集めることができた。 ・それぞれの講座も定員を大幅に超える参加申込があり、内容も参加者から高い評価をいただくなど充実したものにできた。
		事業中止 「ユニバーサルキャンプ in 生駒」の開催 /参加者数:60人	
多様性を認め合う場の提供	年齢や性別、障がいの有無や国籍、文化など個々人の違いや多様性を認め合う学びや体験の機会を提供する。		C - コロナ禍の影響もあり、高齢者や障がいのある方が不安なく参加できる宿泊行事の開催は困難と判断し開催を中止した。 - 本事業についても事業のあり方を見直し令和5年度限りで終了とした。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
高齢者の学びへの意欲向上と、学びを「行動」につなげる仕組みづくり	「いこま寿大学」の内容を充実させ、高齢者の学習意欲を引き出すとともに、学びの成果をまちづくりにつなげられる人材を発掘、育成する。 また、「寿生駒連絡協議会」(気らくネット)に代表される同大学の卒業生など有志の市民が地域や学校等と連携しながらまちづくりの担い手として活躍する機会を増やしていけるよう支援を行う。さらに、高齢者が必要な知識や気づきを得て、より安心感をもって充実したセカンドライフを送れるようサポートする。	・「いこま寿大学」について、学習期間(2年または4年)の選択や再入学を可能とした制度での運営 ・実務講習会において生駒のまちや地域活動への関心を高める新たな講座を実施 ・気らくネットによる社会貢献活動 小学校3校で実施 ・豊かなセカンドライフの実現に向けた講座等の開催 講演会 1回 実践講座 5回 参加者数:計360人 ・社会貢献活動への参加意欲を促す講習会の開設やクラブ学習課程の改善 ・学習期間(2年または4年)の選択や再入学を可能とした新たな制度での運営 ・気らくネットによる地域での社会貢献活動の支援 ・豊かなセカンドライフの実現に向けた市民啓発講座の開催	A ・いこま寿大学では新たな制度のもと再入学を含む159人の入学者を迎え、学生数も増加に転じた。 ・また実務講習会では、市の総合計画やまちづくり活動に関する講座も新設し、地域活動への関心を高め参加を促すことができた。 ・気らくネットと市内小中学校との連携を引き続き進め、地域における寿大学卒業生の活躍の場の拡大につなげた。 ・豊かなセカンドライフの実現に向けては、動機づけとなる講演会のほか、「片づけ」や「資産管理」等多様なテーマの実践講座の実施を通して、参加者が新たな一歩を踏み出すきっかけとした。
家庭・学校・地域が連携した家庭教育の支援(再掲)	子育ての不安解消や地域でのつながりづくりなどを目的に、地域で子育て支援等に関わる市民との協働により立ち上げた生駒市家庭教育支援チーム「たけのこ」を中心に、学校園などとの連携のもと親子や保護者を対象とした交流事業や家庭教育に関する情報発信などに取り組む。	・地域での交流イベントの開催 開催回数:2回 参加者数:計45人 ・「たけのこ通信」の発行 2回 ・チームメンバーの研修の実施 1回 ・家庭教育支援チーム「たけのこ」による取組の実施 ・取組の情報発信 ・チームメンバーの研修	A 交流イベントの参加人数は少なかったが、そのぶん参加した保護者との対話を充実させ、保護者にとっても家庭教育に関する学びが深まり他の保護者となつながら機会となり満足度も高いものとなった。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
新たな地域クラブ活動推進事業	将来にわたりスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保するため、新たな地域クラブ活動推進協議会を設置し、コーディネーターを配置するとともに、新たな地域クラブの活動支援等を行う。	・新たな地域クラブ活動推進協議会を2回開催 ・コーディネーターの配置 ・新たな地域クラブ活動を5クラブ実施	A 学校部活動の地域移行や地域連携に伴う国の実証事業を受託するとともに、新たな地域クラブ活動推進協議会の設置やコーディネーターの配置などの仕組みづくりを行い、将来にわたりスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保できるよう支援を行った。
生涯学習施設整備事業	誰もが安心・安全に利用できる施設にするため、老朽化が進んでいる市内生涯学習施設を適切に維持管理し、計画的に改修を進める。	・北コミュニティセンターISTAはばたき空調設備更新工事設計業務完了 ・生駒市コミュニティセンター文化ホール1期調光操作卓改修完了 ・生駒セイセイビル照明LED化改修工事(1階、4階)完了 ・南コミュニティセンターせせらぎ外構改修工事完了 ・南コミュニティセンターせせらぎ仮設駐車場整備工事完了	A 照明LED化改修工事や空調設備更新工事設計業務や更新工事等を計画的に実施することで、市民にとって文化・生涯学習の拠点施設を継続的に安心・安全に利用できるように施設の環境整備を行った。
体育施設整備事業	子どもから高齢者、障がい者まで誰もが安心・安全に利用できる施設とするため、トイレの洋式化を進める。また、老朽化が進んでいる市内体育施設を適切に維持管理し、利用者の安心と安全を確保する。	・市民体育館トイレ改修工事完了 ・総合公園体育館及び井出山体育施設トイレ改修工事完了 ・井出山体育施設照明LED化及びバスケットゴール改修工事完了	A 市民体育館トイレ改修工事や総合公園体育館及び井出山体育施設トイレ改修工事、井出山体育施設照明LED化及びバスケットゴール改修工事等を実施し、災害時には避難所となる施設の環境整備を行った。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組名称	活動内容	実績・成果	評価
生涯学習施設の設備の充実	生涯学習施設の設備を充実させ、市民サービスの向上を図る。	・図書会館2階計算機室PACエアコン更新工事完了 ・備品の購入・設置	A 施設の安心安全の確保や更なる市民サービスの向上のため、施設・設備の改修工事や備品の更新を計画的に実施し、施設の環境整備を行った。
生涯学習施設の管理運営	市民の生涯学習の拠点となる生涯学習施設を適切に管理運営し、生涯学習の活性化につなげる。	生涯学習施設の利用人数：871,763人	A 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、市民に対し施設の利用料金の減免を6月まで継続したことで利用者数は回復し、文化活動等の利用促進に寄与し、施設利用者の安心安全の確保や施設の環境改善に努めた。

【評価による課題】

- ・働き盛り世代や子育て世代へのアプローチは順調に進められているが、引き続き生涯学習の裾野を幅広い世代に広げていくとともに、地域でのボランティア活動の機会の創出など、一人でも多くの参加者が学びの成果を何らかの形で社会還元につなげていけるような仕掛けを検討する必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

- ・引き続き、市民等との連携・協働を進め、若い世代も積極的に参加したくなるような学びの機会を提供していく。また、学びの事業の中で、地域活動等を身近なものとして具体的なイメージが伝わるような情報提供を行うなど社会還元につなげるための工夫を行う。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

< 参考データ >

生涯学習施設の利用者数

(単位：件、人)

	令和 5 年度		令和 4 年度	
	利用件数	利用人数	利用件数	利用人数
たけまるホール	11,010	177,110	12,323	174,459
やまびこホール	86	1,517	80	1,329
鹿ノ台ふれあいホール	3,387	42,244	3,227	39,488
生駒市図書館	4,092	89,101	4,032	78,158
生駒市コミュニティセンター	9,704	133,929	11,361	159,361
南コミュニティセンターせせらぎ	8,650	123,164	8,485	113,047
北コミュニティセンターISTA はばたき	12,177	200,867	10,613	152,761
芸術会館美楽来	6,233	103,831	6,466	94,937
合 計	55,339	871,763	57,291	813,540

いこま寿大学の在籍者数等

(単位：クラブ、人)

	クラブ数	在籍者数	入学者数	定員	応募者数	卒業者数
令和 2 年度	16(※1)	635	83	275	154	130
令和 3 年度	16	452	84(※2)	275	65	129
令和 4 年度	16	355	73(※2)	275	71	96
令和 5 年度	13	363	159	215	161	101

(※1) 歴史クラブと健康体操クラブを新設、ハイキングクラブ(自主 10km、自主 8km)を募集停止とした。

(※2) 令和 2 年度に願書を提出したがコロナ禍のため入学を見送り、令和 3 年度に改めて入学した者を含んでいる。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた図書館づくり

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
子ども読書活動の充実	子ども読書活動における家庭・地域・学校の新しい連携づくり	「トライ！生駒子ども読書会議」を3回実施。参加者合計235人、YouTube197回視聴(第1回会議)+310人視聴申込(第2,3回会議合計) 「家読」推進を図る活動を参加者が各自実施し、会議で意見交換を行う。 /生駒子ども読書会議の開催回数:ワークショップ3回	A 毎回、外部から講師を招聘し、一般公開のうえ、デジタルと子どもの読書やポストコロナ社会における子育て等について学び合った。講演はweb公開もし、広く子ども読書活動推進に携わる人と課題共有した。
「人を通して人を知る」「本を通して人を知る」をキャッチフレーズとするビブリオバトル全国大会の開催	図書館が本を通じて語り合う場になるとともに、年齢や地域の枠を超えた全国大会を開催する。	発表者5人 観戦者372人 計377人 ビブリオバトル全国大会inいこまを開催 /ビブリオバトル全国大会の参加者数:380人	A 予選はオンラインで4回、オフラインで1回開催し延べ211人参加。予選バトラーによるオンライン前夜祭も開催した。
市民との連携や「協創」のもと、まちづくりの拠点となる図書館づくり	市民との連携や「協創」のもと、人と人をつなぐ事業を行い、新たな文化を創造する「まちづくりのプラットフォーム」となる図書館を目指す。	・「本棚のWA」4回 ・「未在亭」3回、「朝活読得会」を本館、北分館、駅前図書室で定期的に実施した。 ・館外サービスとして、まちかど図書室の登録が27団体となり、リサイクル本777冊を提供し、本のイベント71回実施した。 ・図書館事業ボランティア団体数が15団体となった。 市民との「協創」事業の開催、まちかど図書室活動の推進 /図書館事業ボランティア団体数:12団体	A 市民と協働し、多くの事業を行うことにより、図書館や読書活動に興味関心を持つ市民が増え、より多くの人に本の楽しみを届けることにつながった。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
図書館読書 バリアフリー 事業	障がい、高齢等の理由により、図書館の利用に困難を感じている人が気軽に利用できる図書館を目指し、ボランティアとともに読書推進を行う。	・音訳ボランティアによる録音図書作成8点、対面音訳21回、耳で楽しむ本の会参加者304人。 ・宅配サービス411回1,376冊貸出。 ・知的障がい者読書サポート事業では、館内整理日を利用した団体利用7団体、61回。	A 利用者、利用団体が増え、読書に親しむ機会を多く提供できた。潜在的に図書館利用に障がいがある人が多くいると思われるので、引き続き、PRに努める。
		・音訳ボランティア養成講座、音訳サービスの実施 ・宅配サービスの実施 ・知的障がい者のための代読サービスの実施	
図書館本館 リニューアル 事業	図書館の利用形態が、貸出中心から滞在型へと大きく変わったことに対応するため、子どもや高齢者、障がい者も利用しやすく、誰もが行ってみたいくなるような図書館となるよう、図書館本館のリニューアルを行う。	ワークショップを3回開催。のべ103人の参加。リニューアルの方向性を打ち出した。また、空間デザインの座学を1回開催、参加者37人。	A 多くの市民とともに、市民が望むこれからの図書館について意見交換をすることができ、リニューアルの方針を決定することができた。
		・図書館利嘆者、市民、関係団体等によるワークショップを開催	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
図書館の運営と充実	図書サービスや利便性の向上を図り、誰もが利用しやすい図書館運営を行う。	市内18か所で出張図書館を行い、実施回数147回、貸出冊数2,030冊となった。 出張図書館事業を開始する。図書館外での貸出を行うことで、気軽に本に親しんでもらう環境を作る。	A 実施回数が昨年度に比べ63回増え、読み聞かせや本に関する講座なども行った。本に親しめる場所として、市民の方に好評を得ている。
子ども読書活動の充実	子どもの健やかな成長の糧となるよう、ブックスタート事業など子どもの読書活動を推進する。	館内での「おはなし会」2,404人、「絵本の会」810人。学校等でのおはなし会等出前授業3,035人。まちかど図書室等におけるイベントのうち児童向け31回実施。生駒北小学校においてボランティアと学校の協働でオータムフェスティバルを実施。ボランティアによる図書館託児事業「こあら」のべ278人利用。	A 図書館の内外を問わず、あらゆる場面で子どもに本を届ける活動を行った。また、託児事業を行い保護者の読書活動推進も行った。
読書活動ボランティアの育成と協働による事業推進	読書活動ボランティアを育成するとともに、同ボランティアと協働し、読書に触れる環境を整備する。	ボランティア養成講座として、音訳10回、学校図書館修理講座2回及び実習、子どもに語るおはなし講座5回開催。ボランティアによる生駒に関する新聞記事の切り抜きのスクラップブックを作成した。鹿ノ台図書室では、配架やイベント等、図書館の運営にも関わってもらっている。	A 様々な分野で市民と協働しながら図書館運営を行った。障がい者への情報提供や、子ども読書活動推進、郷土資料の充実等、行政だけでは到達できないサービスのレベルを維持している。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

- ・図書館の利用に障がいがある人に対する図書館の環境改善や、様々な理由によって図書館へ来ることが困難な人への対応、図書館や読書に関心が無い人等への啓発等が必要である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

- ・地域住民や図書館利用者、市役所関係課、幼保こども園、学校、民間事業者等と積極的に連携し、デジタル化も視野に入れながら、読書人口を増やすとともに、新たな文化を創造するまちづくりの拠点となる。

<参考データ>

図書館蔵書冊数等

(単位：冊、人)

	蔵書冊数	貸出冊数	貸出人数	利用券登録者数
令和2年度	647,638	1,094,768	317,867	49,710
令和3年度	649,712	1,263,753	358,627	47,161
令和4年度	646,210	1,195,065	352,645	44,357
令和5年度	651,459	1,148,729	341,771	41,302

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

3 歴史・伝統文化・芸術を通じた、より豊かなまちの実現

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
『生駒市史』編さん事業	『生駒市史』編さん事業は、昭和60年に最終巻を発刊し終えたが、その後30年間に行われた発掘調査や古文書調査等の新たな成果が蓄積されている。加えて、生駒市を取り巻く状況は大きく変化してきており、市制50周年を記念して新たな「生駒市史」を編さんする意義は大きい。優れた専門性を備えた市内在住研究者や学校関係者、ボランティアの参画により「生駒市史」の編さんを行う。	編さん委員会、5分科会開催 ・補充調査実施 ・ボランティアを活用した編さん作業継続 ・記念講演会 122人 ・いこま歴史キャンパス開催 4 講座延べ 158人 ・史料集2冊の翻刻・編集・ニューズレター発刊など ・編さん委員会開催 ・補充調査 ・史料集2冊の翻刻・編集 ・記念講演会 ・地域学習イベント ・ニューズレター発行	A 有山武兵衛文書ほか各分野の史資料調査を実施するとともに、編さん委員会、分科会、編集会議を開催し、各分野の方針等の情報を共有した。またボランティアの参画による史料の収集、翻刻等の編さん作業を実施した。また、調査研究の成果を地域学習イベント・講演会・ニューズレターなどを通じて伝え、事業PRに努めた。また、次年度刊行に備えて生駒の近世・近代の史料集の翻刻及び編集を進めた。
市史編さん収集資料活用事業「いこま歴史アーカイブ」	市史編さん作業で収集した資料のうち、書籍の基礎となる貴重かつ活用可能な資料を選択し、令和7年度以降『市史』を発刊公開して以降、史料を随時公開し、活用をはかる。	・史料の収集・撮影を行った。 ・分科会で意見聴取、活用手法を検討した。 ・史料の収集・撮影 ・史料の選択 ・関連課調整	A 史料の収集をおこなうとともにアーカイブに適する史料を選定した。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
歴史・伝統文化の学びの場の提供と情報発信	市内に存在する有形・無形文化財の保存・活用、伝統文化に親しむ機会の拡充や継承を進めるほか、生駒ふるさとミュージアム等を拠点とした郷土学習の場の提供や歴史文化の発信を行う。あわせてデジタルミュージアムによる情報発信を行うことで、市民が容易に生駒の歴史や伝統文化に触れることができる環境を整備する。	・小学校児童を対象とした高山竹林園での茶筌製作実演や茶道体験の学習支援 参加校数:5校 参加者数:計349人 ・ふるさとミュージアムにおける特別展・企画展、各種講座等の開催 来館者数(年間):7,108人 ・小学校への出前授業 実施校数:7校 ・デジタルミュージアムの運営と周知 年度中のページビュー数:29,305	A
		・小学校児童を対象とした郷土の伝統文化(茶筌・茶道)学習の促進 ・ふるさとミュージアムにおける企画展等の開催 ・デジタルミュージアムの運営と周知 ・市内の文化財を活用した講座等の実施	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
市民との「協創」による「音楽のまち生駒」の発信	「市民みんなで創る音楽祭」など市民の企画提案によるコンサートの開催を通じて、市民が身近に様々なジャンルの音楽に親しめる機会を提供する。 また、吹奏楽を愛する市民により結成された「生駒市民吹奏楽団」の活動を支援するとともに、市内学校の吹奏楽部・バンド等との連携のもと、合同演奏会などの開催を通じてあらゆる世代の市民に吹奏楽や音楽の楽しさを提供・発信する。	◎「市民みんなで創る音楽祭」 提案団体 12 団体 実施団体 8 団体 来場者数 3,030 人 出前授業 9 校 参加者 2,237 人 ◎市民吹奏楽団事業 ・「いこすいフェスタ 2023」(6月 25 日開催) 来場者数 572 人 ・「0才から楽しめるファミリーコンサート」(12 月 17 日開催、2回公演) 来場者数 1,277 人 ・「いこま吹奏楽の日」(令和6年3月2・3日開催) 来場者数 2,000 人 ・「市民みんなで創る音楽祭」の開催 ・市民吹奏楽団の運営、事業開催 /「市民みんなで創る音楽祭」提案団体数:14 団体	・「市民みんなで創る音楽祭」は予算の関係上、実施数は8公演となったが来場者数は前年度を上回った。 また、市内小中学校へのアウトリーチ公演は実施校数や参加者数も大幅に増え、子どもへの音楽教育の充実にも貢献することができた。 A ・吹奏楽事業を含めいずれの事業も多数の来場者に恵まれ、「音楽のまち生駒」を市内外に発信することができた。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		設定目標	
生駒ふるさと ミュージアム 管理運営	市の歴史文化の普及のため、生駒ふるさとミュージアムの指定管理者と連携して、適切に管理運営する。	生駒ふるさとミュージアムの来館者数（年間）：7,108人	A ふるさとミュージアム指定管理者の企画による特別展示等の開催により、初めての来館者を含む多数の観覧があり、本市の歴史文化の発信とともにふるさとミュージアムの認知度を高めることができた。 また、新たに親子向け歴史講座を開催したほか、引き続き実施している「勾玉体験」にも多数の参加を得るなど、子どもだけでなく子育て世代の来館者増にもつながった。
文化芸術事業	市民の文化芸術活動を活発化するため、成果発表会の場の提供や指定管理者の自主事業の実施、文化芸術団体との連携などを推進する。	生涯学習施設で行われる芸術文化活動の参加者数：22,746人	A コロナ禍も一定落ち着いていたこともあり、関係団体や指定管理者等と連携しながら積極的に事業実施に取り組み、昨年度を大幅に上回る参加者数を得た。
文化財保護と歴史文化の普及	市の歴史の普及を図り、郷土愛を醸成するとともに、市の貴重な文化財保護を行う。	歴史文化系講座聴講者数：1,334人	A 生駒ふるさとミュージアムにおいて本市の文化財や歴史をテーマにした企画展や特別展、各種講座や講演会を行うほか、市内小学校への出前授業にも積極的に取り組み、幅広い世代の多くの市民に郷土の歴史文化の普及を進めることができた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

- ・文化芸術や歴史文化に関する事業では小中学校との連携を進めた結果、子どもたちの参加は大幅に増えたが、各種公演や展示の参加者の多くはシニア層が占めており、子どもから働き盛り世代にも関心を持って参加してもらえるような内容や実施手法の工夫が必要である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

- ・引き続き魅力あるイベントの開催を通して市民が文化芸術に親しむ機会を増やすとともに、市史編さん事業における記念講演会や歴史キャンパス事業のほか、ふるさとミュージアムでは新たな切り口で郷土の歴史を学べる講座などにも取り組むことで、より幅広い世代に本市の歴史文化を発信し、郷土愛を高める取組を進める。

< 参考データ >

生駒ふるさとミュージアム来館者数

(単位：人、件)

	大人	子ども	合計	多目的室利用件数・人数	
令和2年度	4,683	1,617	6,300	152	2,555
令和3年度	5,230	3,309	8,539	339	5,039
令和4年度	5,217	2,401	7,618	306	5,153
令和5年度	5,151	1,957	7,108	249	5,488

文化芸術事業の開催状況

(単位：回、人)

	種 別	令和5年度		令和4年度	
		延べ回数	参加者数	延べ回数	参加者数
市主催事業	市民文化祭等	18	12,713	17	10,438
文化芸術団体補助事業	コンサート等	3	1,078	3	697
指定管理者自主事業	コンサート等	51	8,955	14	4,470
	講 座	334	11,984	309	9,185
合 計		406	34,730	343	24,790

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

4 「健康」「生きがい」「仲間」「まち」をつくるスポーツの発展

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
第2期スポーツ推進計画策定事業	本市スポーツ推進の基本的な方針を示す「生駒市スポーツ推進計画」が、令和5年度で計画期間が終了するため、次期計画となる「(仮称)第2期生駒市スポーツ推進計画」を策定する。	・令和4年度に実施した「スポーツに関する市民意識調査」等を基に、第2期スポーツ推進計画を策定した。 ・第2期スポーツ推進計画策定	A スポーツ推進審議会や計画策定委員会の開催、関係団体からの意見聴取、パブリックコメントの実施等、広く市民や関係団体等の意見を踏まえ、計画策定を行った。
総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	誰もが身近な地域で気軽にスポーツ活動が行えるよう、市内の総合型地域スポーツクラブの発展を支援するとともに、新たなクラブの設立に向け、関係団体への情報提供や人材育成を行う。	・広報掲載、チラシ配布等による各クラブの周知啓発活動支援 ・生駒市総合型地域スポーツクラブ連携会議の開催(1回)及び新規クラブの設立支援(新規2クラブ設立) /会員数:1,013人 ・各クラブに対する活動支援 ・新規クラブ設立準備支援 /市内クラブの会員数:1,000人	A 各クラブが実施する事業等についての周知啓発や、各クラブ間の情報交換を行うとともに、新規クラブの設立支援を行うことにより、会員数の増加や各クラブの組織体制の強化に繋がった。 また、学校部活動の地域移行に伴う国の実証事業を受託するとともに、新たな地域クラブ活動の推進を見据え、市内総合型クラブが実施主体となる仕組みづくりを行った。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
みんなのスポーツ推進事業	子どもから高齢者、障がい者などあらゆる市民が、スポーツに親しみ、楽しむ機会の充実を図る。	・スポーツを始めるきっかけやスポーツに親しんでもらえる1日とするため「いこまスポーツの日」(令和6年3月20日)を開催 参加者数:640人 ・障がい者スポーツ用品の購入及び活用(スポーツ用車いす) ・障がい者対象スポーツ事業:5回開催 ※上記事業の中で、車いすバスケットボール体験会を2回実施	A 「いこまスポーツの日」の開催にあたり、市スポーツ施設指定管理者や市内総合型地域スポーツクラブ等と連携したことで、バルセロナアカデミー奈良校によるサッカー教室や、リレーマラソン、eスポーツ体験会、芝生でピラティスの開催などを実施し、多くの市民の参加を促すことができた。また、令和4年度にモデル事業として実施した障がい児用運動プログラムを拡充開催し、参加者から高い評価を得ることができた。
		・いこまスポーツの日の開催(1回) ・障がい者対象スポーツ事業の開催(4回) ・障がい児用運動プログラムの実施 ・車いすバスケ体験会の実施 ※企業版ふるさと納税を活用 ・障がい者対象スポーツ事業の開催(5回) ・障がい児運動プログラム事業の実施/みんなのスポーツ推進事業の開催:6回/年	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和5年度の取組/設定目標	
トップアスリート連携事業	スポーツに憧れや夢を抱けるように、メダリストやトップアスリートを招き、スポーツ教室や講演会を開催し、有名スポーツ選手と触れ合う機会をつくる。	・県内実業団女子ホッケーチームによるホッケー体験会(32人参加)や、オリンピックによる水泳教室(43人参加)の実施	B 他事業や事業講師となるアスリートとの日程調整等が合わず、実施回数が当初の目標には至らなかったが、実業団チームによるホッケー体験会やオリンピックによる水泳教室を開催し、国内外トップレベルのアスリートと触れ合う機会を創出した。
		・スポーツ教室や講演会の実施 /アスリート連携事業の実施:年5回	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
子ども体力 向上事業の 実施	子どもの体力向上を 目指すため、子ども を対象としたスポー ツイベントを開催す る。	子どもを対象とした イベント・事業の参加 者数：1,950人 子どもを対象とした イベント・事業の参加 者数：2,300人	A 新型コロナウイルス 感染症が5類感 染症に移行され、 水泳競技大会や、 IKOMAマラソン チャンピオンシッ プなどの種目別競 技会を制限なしで 開催し、子どもた ちのスポーツ活動 の発表の機会とし た。
スポーツ、レ クリエーショ ン活動	様々なニーズに合っ たイベント、講座等 を開催し、誰もがス ポーツに触れること ができる環境を整備 する。	市内各種スポーツイ ベントなどの参加者 数：11,687人 市内各種スポーツイ ベントなどの参加者 数：20,000人以上	A 新型コロナウイルス 感染症が5類感 染症に移行される までは、新型コロ ナウイルス感染拡 大防止対策を講じ た上で市民体育大 会等を開催し、5 類感染症に移行さ れた後は制限なし でファミリースポ ーツの集いをはじ めとする各種スポ ーツ事業を開催 し、市民のスポー ツ活動の場の提供 を行った。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
社会体育施設 の管理運営	市民のスポーツ活動の 拠点となる社会体育施設 を適切に管理運営し、 スポーツ環境の整備を 図る。	市内体育施設の利用 者数：816,423人 市内体育施設の利用 者数：1,000,000人	A 新型コロナウイルス感 染症が5類感 染症に移行さ れたが、一部の 施設で利用者が 戻らず、当初目 標には至らなかつ たが、指定管理者 と連携し、施設利用 者の安心安全の 確保や施設の環 境改善に努めた。
スポーツ推進 審議会の開催、ス ポーツ推進委員 の運営	審議会を通じて専門 家や市民から市のス ポーツ施策に関する 意見を聴くとともに、 地域住民であるス ポーツ推進委員と 協働してスポーツの 普及を図る。	スポーツ推進審議会 開催回数：2回 スポーツ推進委員 会議：2回 研修会等：8回 実技指導：9回 その他地域での実 技指導	A スポーツ推進審 議会では、「生駒 市スポーツ推進 計画【改訂版】」 の各施策の進捗 状況や検証等を行 うとともに「第2 期生駒市スポーツ 推進計画」を策 定した。 スポーツ推進委 員では、ファミリ ースポーツの集 いやいこまスポ ーツの日、各種障 がい者スポーツ支 援事業等での実 技指導により、更 なる地域スポーツ の推進が図れた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

- ・令和5年度は、ほとんどのスポーツ事業をコロナ禍以前のように制限なしで実施することができ、市民がスポーツに夢や憧れを抱ける機会やスポーツを始めるきっかけ、スポーツに親しんでもらえる機会を創出することができた。特に、障がい児用運動プログラムをはじめとする障がい者対象事業は多くの参加者から高評価をいただいているため、今後は継続してスポーツにふれあっていただける環境とするため関係団体との更なる連携や地域の協力が必要と感じている。
- ・学校部活動の地域移行や地域連携については、国の実証事業を受託し、市スポーツ協会や市内総合型地域スポーツクラブ等の実施主体と連携し取り組みを進めているが、今後は国や県が目標として掲げている令和8年度までの地域移行を目指し、関係団体等との調整を図りながら更に進めていく必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

- ・「生駒市スポーツ推進計画」の重要施策である総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業やみんなのスポーツ推進事業については、市民ニーズや参加者等の意見を取り入れながら引き続き取り組みを推進する。
- ・休日の学校部活動の地域移行を見据え、将来にわたりスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保するため、令和5年度に設置した「新たな地域クラブ活動推進協議会」で検討し、生徒や児童にとって持続可能で多様な環境を構築する。

<参考データ>

スポーツ、レクリエーション活動の実績

(単位：人)

事業名	令和5年度	令和4年度	事業名	令和5年度	令和4年度
体育大会	4,909	4,507	学校体育施設開放	2,808	2,782
ファミリースポーツの集い	72	34	生駒ふれあい市民マラソン	中止	中止
小学生長距離走記録会	317	297	生駒山スカイウォーク	廃止	400
スポーツ教室	3,721	4,570	チャリロゲいこま	49	65
体育館無料開放	1,438	1,273			

社会体育施設の利用実績

(単位：人)

施設名	令和5年度	令和4年度	施設名	令和5年度	令和4年度
生駒北スポーツセンター	128,860	123,835	滝寺公園	140,553	136,804
イモ山公園	54,538	52,460	むかいやま公園	38,665	38,742
北大和	84,599	83,179	小平尾南	32,849	35,256
総合公園	132,698	115,574	井出山	181,493	189,453
山麓テニス	22,168	21,265	合 計	809,579	796,568

点検及び評価に関する意見

(1) 教育委員会の活動状況に対する意見

生駒市が、平成28年6月に教育・学術及び文化の振興に関する総合的な施策の生駒市教育大綱（第1次）を策定してから6年が経過した。令和2年6月より「第2次生駒市教育大綱」に基づく事業が推進期間4年としてスタートし、本年度はその最終年度の点検評価となっている。

毎年「アクションプラン」を策定・更新することで教育理念の具現化を図ってきた。市長マニフェストと連動し「PDCA」が年度ごとに活かされ、発展的かつ一貫性をもった取組が進められ、成果につながっている。長期的展望に立って先進的な改革を目指し、積極的に取り組まれている点を評価している。

そして、令和6年度から実施される第3次生駒市教育大綱策定に向けての取組も期待できる。

令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症の位置づけが、「5類感染症」となり、事業や活動での様々な制限はなくなったが、社会にコロナ禍の影響が残る中での活動は評価している。このような状況下にある中、これからも実績をしっかりと点検、評価し、改めるべきところを見極め、生駒市教育大綱に沿ったコロナ禍後の活動を市が主体となって、今後とも臨機応変に対応していただくことを望みます。

活動の点検・評価として、各事業・取組ごとに評価等を詳細に文章を表記することに加え、昨年度から評価の総括として、事業・取組とそれに対する評価を一覧表にすることで、事業・評価の全体を一目で確認でき、解りやすくなったことは評価できる。

(2) 生駒市教育大綱に基づく施策・事業に対する意見

基本方針 1 子育てを楽しめる地域づくり

1 保護者支援の場・コミュニティづくり

子育て家庭と妊産婦等を支援するため、関係機関と連携し支援することにより、虐待の未然防止・早期発見に努め、拠点担当者に必要な研修を受講させ、知識・対応力の向上により、相談体制を充実させたことは評価に値する。今後、益々事業の必要性が増すと思われる。11月1日からセンター内で短時間預かり事業がはじまり、依頼会員・援助会員が増加し、活動件数が2,398件となったことは、今後の活動に大きな期待がもてる。これからも更にファミリー・サポート事業の周知を図り、地域で支え合う子育てのコミュニティ構築を期待する。とりわけ、パパセミナー講座修了後のアンケートでは、「父親が子どもと関わる時間が増えた。」等の声が聞かれ、パパセミナー等夫婦で協力して子育てをしていく支援事業の発展を今後も期待する。

「待機児童解消に向けた取組の推進」についても、小規模保育所の開園、保育人材の確保をはじめ、保育コンシェルジュによる出前相談会や、コロナ禍にあって工夫しサポート体制等を実施してきたが、東生駒駅周辺及び生駒駅周辺の受け皿不足等により、令和6年4月1日入所における待機児童数が16名となった。小規模保育所及び保育所の分園等の計画を進める中で、令和7年までの待機児童解消に向け、今後も取組の強化をお願いしたい。

妊婦期から子育て期にわたり、切れ目のない子育て支援事業が展開されていることは、評価に値する。また民間学童保育所の開設にも更に取り組まれ、今後に期待している。子育て世代の保護者が孤立せず、虐待の未然防止、早期発見も含めて子どもたちが安心して過ごせるよう、家庭・地域・学校・事業者・行政が連携し、地域全体で見守り育み、健全な成長に向けて今後とも様々な家庭に応じた支援をお願いしたい。とりわけ、市民との協働により立ち上げた生駒市家庭教育支援チー

ム「たけのこ」を中心に、学校園などとの連携のもと、親子や保護者を対象とした交流事業や家庭教育に関する情報発信などの取組を、今後大いに期待している。

2 「遊び」を「学び」につなぐ就学前教育の充実

生駒市保幼小接続推進会議を開催し、保幼小接続についての学びを深めたことは、今後さらに発展するために価値ある事業であると考えます。また、写真・動画・リーフレットを活用し、「遊び」を「学び」につなぐ幼児教育の可視化を保護者にも示したことは評価できます。

新たに設置した学校運営協議会との一体的な推進により、「えん・くろす」の取組が、一層地域や保護者の主体的な活動によって実施され、園が地域活性化の役割を担ってきていることは評価できます。世代間交流や事業者との連携等、「協働」による楽しく充実した取組を今後も期待する。

また、特別支援加配を必要とする園児3人に1人の加配教諭を配置し、一人ひとりの特性に応じて、きめ細かい支援を行うことができたことは評価したい。

保護者の働き方の変化も踏まえ、保護者のニーズへの対応が求められる。国及び県からの補助金の確保に努めていただき、どんな状況下でも、きめ細やかな対応をお願いしたい。

基本方針2 21世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり

1 「地域に開かれ、地域とともにある学校づくり」の推進

本市では以前から「地域ぐるみの児童生徒健全育成事業」等、地域の実情に応じた、特色ある教育活動が地域と連携してなされてきた。それらを基に発展させた「学校運営協議会」を市内全小中学校に設置し、本格的にコミュニティ・スクールが始動していることは評価できる。

現状として学校や家庭だけでは十分とは言えない教育や子育てを、それぞれの長所を生かし合い、欠点を補う中で、学校・保護者・地域住民の協働を通して「地

域とともにある学校の実現」に向け、学校間の情報を共有し、さらに充実したコミュニティ・スクールの取組を期待している。また、令和４年度より実施してきた「いこま教育フォーラム」は、教職員の資質能力の向上につながり、今後求められる授業改善の方向性及び学校現場の課題解決となることを期待している。

また、教育現場を支援する取組として、スクールボランティア、学びのサポーターを各小中学校へ派遣することにより、教育の充実が図られたことは評価できる。

２ ICT機器を活用した新たな学びの創出と時代に応じた環境整備

国のGIGAスクール構想をはじめ、令和の日本型教育の実施事業に合わせ、生駒市でも今まで積み重ねてきた実績を生かし進められている。１人１台のパソコン端末が整備され、全小中学校にICT支援員を配置することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による新しい学びの形をいこまモデルとして提案し、日常的な指導において日々改善を図り、効果が定着するよう進められていることは評価できる。とりわけ、Google認定者取得講座を３３人が受講し、受験者の８７．８％が合格したことにより、授業改善や校務DXの推進など市内教員のICTスキルアップにつながることに期待する。

オンライン学習や協働学習でICT機器を活用し、学校だけでなく学校と家庭を結ぶツールとして利用していくこと等、新たな学びの環境整備とともに、教員のICT活用能力向上についてオンラインでの研修の実施により、参加しやすい環境が設定され、取組内容を市内の学校で共有できたことは評価に値する。また、子どもたちに情報伝達の便利さとともに、ICT活用マナーの育成指導もお願いしたい。

全中学校の校舎のトイレ洋式化が完了し、学校環境の改善を図れたことは、評価できる。中学校給食センターの老朽化に伴う施設改善で、給食の提供を中止することなく、床改修工事を完了したことは評価したい。今後は、老朽化が進んでいる小

中学校において、大規模改修を順次計画的に実施するようお願いしたい。

3 多様性を認める柔軟性とやさしい心の育成

「自殺対策推進事業」、「ICT機器を安全に活用するための情報モラル教育の推進」が、昨年度に引き続き充実した内容で示された。いじめ根絶に向け、すべての組織が自らの課題と捉え主体的に取り組がなされていると思うが、子どもたちの様子も察知しづらくなっている現状の中、全国的にSNSを利用したいじめをはじめ悲しい事件の報道もある。そんな状況下での取組を喫緊の課題として新たに取り組まれ、研修も深められつつあることを評価し、更なる取組に期待する。

また、不登校支援推進として、「のびのびほっとルーム」、「いきいきほっとルーム」等、学校に登校しにくい児童の居場所となることを期待している。

今後も教員が児童生徒の出す信号に素早く対応するためにも、各校園に「スクールカウンセラー」、「スクールソーシャルワーカー」、「スクールアドバイザー」等が派遣され、「カウンセリング」や「教育相談」の充実が図られ、今後もしじめ防止に向けた学校づくりの推進と、更なる充実に向けた取組をお願いしたい。

また、特別教育支援体制として、「教育相談室」、「適応指導教室」、「言葉の教室・通級指導エル」等も成果を上げていて評価したい。近年、特別な支援を要する子どもたちが増加傾向にある。登校しにくい児童に対し、適応指導教室を開設したことは評価できる。よりきめ細かな特別な支援に対し、今後も更なる体制の充実をお願いしたい。

4 主体的に学び、挑戦を続けるたくましい心身の育成

「主体的に行動する力」、「課題を見つけ、解決する力」、「グローバル時代に対応する語学力」、「他者と協働するためのコミュニケーション能力」を育成し、これからの社会の中においても、生きぬく力を身につけることができる学びの環

境を充実していくことが求められている。

自分の夢を持ち、自己有用感を高めることができる心の教育と、健やかな体を育成する取組として「社会に開かれた学校教育推進事業」が掲げられ、「あこがれいこまびと講演事業」や「生駒こどもチャレンジ補助事業」、「チャレンジ！やさしくたくましいいこまっこキャンプ」等にも引き続き取り組んでいただきたい。児童生徒の郷土愛を育むとともに、将来の自分のあり方に関心をもつことができ、また、自然と向き合い、自然体験の良さと自然の怖さを知識として得ることができ、児童生徒の「生きる力」を育むことができたことは評価できる。

全国的に問題となっている、中学校において専門的な技術指導者の不在、また部活動での教員への負担等について、地域指導員の派遣の取り組みを進めてきたことは評価に値する。地域指導員の確保という課題はあるものの、今後の取組に期待している。

理科離れが進む中、奈良先端科学技術大学院大学と連携した授業も以前から行われているが、市にある連携できる機関を利用し、今後益々児童生徒たちが興味関心を高めることを期待する。また、本市独自の取組として、学校教育の充実を図るため、小学校１年３０人程度学級を実施できたことは評価したい。今後は、２年以上の学年においても実施することを期待している。

５ 「楽しい授業づくり」のための教職員の育成と環境整備

教職員の働き方改革で、「教職員が生き生きと子どもと向き合う時間創造プログラムの推進」が着実に推進されることにより、２１世紀を生き抜く力の育成に向け、「わかる授業」、「楽しい授業」から「学びの喜び」を子どもたちに感じさせることが更にできると思われる。

市内１９校に「スクールサポートスタッフ」を配置したことにより、教職員の勤務時間の削減ができ、教職員が授業や教材研究に集中し、ゆとりをもって子どもた

ちと向き合う時間の拡充が、今まで以上に図れると思われる。特に学校現場は多忙を極め、人的措置は必要不可欠なものである。講師不足対策として講師等就労説明会を実施し、48名の登録を得たことは評価できる。

グローバル時代に対応した外国語教育の推進として、小学校1年から外国語活動を取り入れ、低学年の内からALTとともに楽しみながら外国語活動を行うことで、抵抗感がなくなり、英語に慣れ親しんでいることは評価できる。

また、教職員の能力育成のための研修として、「キャリア教育クライマー会議」、「教職員のファシリテーション能力の育成のための研修」、「ミドルリーダー向け先進校視察支援事業」等で、子どもたちのために、何を大切にしていくか見直しの機会としていくとともに、児童・生徒の成長、学習能力向上のために、教員は更に自己研修に努めていくことが重要であり、今後のこの取組に大いに期待したい。

今後も想定できない状況も考えられる。現場と行政が連携し素早い的確な対応と行政指導をお願いしたい。

基本方針3 すべてのライフステージで、楽しみながら学び、地域とつながる機会づくり

1 すべての人が楽しく、安心して成長し、活躍できる機会の創出

「IKOMAサマーセミナー」は、子どもから大人まで幅広い世代が学びたいことを気軽に学べ、様々な特技や専門知識等を持った市民自身が先生となって開催される、市民の学びと活躍の場である。実行委員会が主体となり企画・開催し、多くの参加者があったことは評価できる。また、実行委員等からの周知や声掛けにより、約6割の方が初めて先生を務めるなど、新たな人材の発掘につながったことも評価したい。サマーセミナーにかかわる人材の発掘・拡充と、サマーセミナーの充実と円滑な実施にむけ、今後も更に工夫・検討されることを期待したい。

不登校や学校を卒業した若者のニートや引きこもり等、困難を抱える子どもや

若者を支援する事業として、「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」を運営し、子ども・若者総合相談窓口「ユースネットいこま」を拠点に相談支援をした。対面やオンライン等を活用した相談体制を実施し、当事者の思いに寄り添いながら、進路決定等自立に向けた支援体制を強化充実したことは評価できる。

働き盛りの世代を対象に、学びを通してより豊かな生き方、暮らし方に向けた気づきやきっかけとなる、未来に広がる学びの場として「i s c h o o l」を計画・実施した。

学びと交流の社会見学「まちミル」や、市民・企業・大学など多様な主体による講座「ミライの教室」を実施し、多くの参加者があったことは高く評価し、今後も期待したい。また、「学びのポータルサイト」を開設し、「i s c h o o l」の講座の告知から開催後のレポートまで、様々な学びの情報を発信し、多くの市民の関心を集めたことは評価できる。

年齢や性別、障がいの有無や国籍・文化等、個々の違いや多様性を認め合う場を提供する事業として、「ユニバーサルキャンプ i n 生駒」を計画・実施してきたが、コロナ禍の影響もあり、不安なく参加できる宿泊行事の開催は困難との判断で開催を中止し、事業の在り方を見直し検討した結果、本事業を終了されたことは、やむなしと考える。

高齢者の「健康」・「生きがい」・「仲間」づくりをモットーに学習成果をまちづくりにかして、地域で活躍することを目指す学びと交流の場である「いこま寿大学」での実務講習の実施により、地域活動への関心を高め、参加を促すことができたことは評価できる。また、同大学卒業生等の有志による「寿生駒連絡協議会（気らくネット）」と小中学校との活動につなげる等、地域での活動の場を広げる様々な取組は評価したい。

体育施設や生涯学習施設等の施設・設備の改修整備や維持管理を計画的に実施し、利用者の安心安全の確保に努め、市民サービス向上のため環境整備しているこ

とは評価している。

2 人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた図書館づくり

子どもの読書活動充実に向け、家庭・地域・学校の連携づくりの取組として外部から講師を招聘した「トライ！ 生駒子ども読書会議」は、読書を通じてコミュニケーションを図り、家族の絆を作る取組である「家読」の推進に取り組み、講演内容をW e bで公開したことは評価できる。また、子どもの健やかな成長の糧となるよう、「おはなしの会」、「絵本の会」や学校等への出前の「おはなし会」など、図書館内外のあらゆる場面で子どもに本を届ける取組を実施されていることは、評価したい。

図書館は人と本の出会いの場であり、本を通して人と人のふれあいを深める場の役割を担っている。第9回「ビブリオバトル全国大会 i n 生駒」を、本年度も予選はオンライン配信を活用し、決勝戦は図書会館で実施して、年齢や地域の枠を超えて語り合う場を開催したことは評価に値する。

市民との連携や「協創」のもと、新たな文化を創造する「まちづくりのプラットフォーム」となる図書館を目指し、「本棚のW A」、「未在亭」、「朝活読得会」、「まちかど図書室」等の取組を実施し、より多くの市民に本の楽しみを届けたことは評価できる。人と本、人と人をつなぐ図書館づくりを今後も期待している。

図書館の運営と充実のため、サービスや利便性の向上を図り、誰もが利用しやすい運営が必要である。社会全体として読書離れが進んでいる中、民間事業者や自治会等に出張図書館開催の協力依頼をし、市内イベント等において館外での貸出を行うことで、利用者が身近な場所で気軽に本に親しみ、借りられる機会を増やしていることは評価でき、今後に期待する。

読書活動ボランティアを育成し、同ボランティアと協働し、図書に触れる機会を

増やす取組は評価し、今後も活発な活動を期待したい。

読書活動ボランティア養成講座として、「音訳講座」、「学校図書修理講座」、「子どもに語るおはなし講座」を計画的に実施したことは評価できる。

そして、音訳ボランティアによる録音図書作成や対面音訳活動、図書の宅配サービス、代読サービスボランティアによる知的障がい者への読書サポート活動や、障がいや高齢等の理由で図書館利用に困難を感じている人が、気軽に図書館を利用しやすくする図書館読書バリアフリー事業は評価したい。

3 歴史・伝統文化・芸術を通じた、より豊かなまちの実現

市民が興味・関心や親しみを持って、地域に根付いた歴史や伝統文化・芸術に触れることは、より豊かなまちづくりにとって意義深いと考える。

前回の「生駒市史」発刊後30年を経過し、その間に発掘調査や古文書調査の新たな資料・成果が蓄積され、生駒市を取り巻く状況も大きく変化してきており、市制50周年を記念した新たな「生駒市史」の編さんは、生駒市への愛着を深め、将来の生駒市を考えていくための事業として期待している。

市民が容易に生駒の歴史や伝統文化に触れて、学ぶことができる機会を提供する活動として、高山竹林園との連携により、コロナ禍が去り、5年ぶりに小学校児童対象に茶せん製作実演や茶道体験を実施したことは評価できる。そして、生駒ふるさとミュージアムの特別展・企画展、各種講座等の開催や、小学校への出前授業等、歴史や伝統文化・芸術の広報や学習の機会を提供していることは評価できる。さらに、生駒市デジタルミュージアムの運営と周知を行い、成果を残している。市民の郷土愛をはぐくむ生駒ミュージアムの様々な活動に今後も期待している。

「音楽のまち生駒」の発信では、市民の企画提案による『市民みんなで創る音楽祭』で市内小中学校への出前授業（アウトリーチ公演）の実施校数・参加者数も大幅に増え、子どもの音楽教育の充実にも貢献できたことは評価できる。そして、『生

駒市民吹奏楽団』の活動として、「いこまフェスタ2023」や「0才から楽しめるファミリーコンサート」や「いこま吹奏楽の日」等を開催した。事業や活動での様々な制限等はなく、来場者が増え、市民が生音楽にふれて親しむ機会や、活動の成果を発表する機会を提供し、「音楽のまち生駒」を市内外に発信したことは評価に値し、今後も期待したい。

コロナ禍も一定落ち着き様々な制限がなくなり、幅広い年齢層の市民参加を促せるような事業や活動を企画し、文化芸術関係の事業や公演の実施回数や来館者数、参加者数が増えたことは評価したい。

4 「健康」「生きがい」「仲間」「まち」をつくるスポーツの発展

生駒市では、スポーツを通じて、健康づくり、生きがいづくり、仲間づくり、そして豊かなまちづくりを目指し、以前から様々な形でスポーツ活動事業を推進・支援してきた。

スポーツを取り巻く社会環境も変化し、生駒市も少子高齢化が進む中、「自分らしく輝けるステージ・生駒」を掲げる生駒市にふさわしい運動・スポーツを楽しむ環境を提供していくため、スポーツに関する施策の方向性や具体的な取組などを定めた、「第2期生駒市スポーツ推進計画」の策定を行ったことは評価できる。

統合型地域スポーツクラブは「多世代（子どもから高齢者まで）・多種目（様々なスポーツを）・多志向（それぞれのレベルで）」で「いつでも・どこでも・誰でも」が参加できるスポーツ環境の在り方として推進されてきた。「学校部活動の地域移行」に伴う国の実証事業を受託し、市スポーツ協会や市内統合型スポーツクラブと連携し、専門的な技術指導力を備えた外部指導者を派遣するなど、新たな地域クラブ活動の推進を見据え、市内統合型スポーツクラブが実施主体となる仕組みづくりを行ったことは評価し、今後の活動に期待している。

みんなのスポーツ推進事業は、年齢や障がいの有無に関係なくすべての市民が、

スポーツに親しみ、楽しむ機会の充実を図ることを目的としている。事業の一つである「いこまスポーツの日」には、市スポーツ施設指定管理者や市内統合型スポーツクラブとの連携や取組の実施により、サッカー教室、リレーマラソンやeスポーツ体験会、芝生でのピラティス等を開催し、多くの市民の参加があったことは評価できる。そして、学校生活で頻度の高い「跳ねる」・「投げる」・「蹴る」の3つの動きを、作業療法士、理学療法士、スポーツ指導者により小集団で実施する「障がい児用運動プログラム事業」を拡充開催し、多くの参加者から高評価をいただいていることを評価し、今後も期待している。

トップアスリート連携事業は、メダリストやトップアスリートを招き、スポーツ教室や講演会を開催し、すべての市民に憧れや夢を与える機会であり、有名スポーツ選手と触れ合うことが大きな影響を与えると考える。県内実業団女子ホッケーチームによる体験会や、オリンピックによる水泳教室を開催したことは評価できる。今後もこの魅力的な事業の継続をお願いしたい。

コロナ禍以前のように制限なしで、ほとんどのスポーツ事業を計画・実施し、市民誰もが気軽にスポーツに取り組み、夢や憧れを抱ける機会を提供していることは高く評価できる。

令和6年8月7日

生駒市教育委員会活動点検評価委員 山 中 和 幸

生駒市教育委員会活動点検評価委員 十文字 良 明